

KM0216/KM0432

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、KM0216/KM0432 取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く変更されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術サポート部

TEL :03-5323-7178

MAIL :support@atenjapan.jp

2009年3月4日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニタ、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATENジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～3年間	無償修理
	3年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～2年間	無償修理
	2年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類は DOA・初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。

※本保証期間は 2007 年 9 月 1 日以降にご購入された製品に適用されます。それ以前に購入された製品については、保証期間は 1 年間です。

【補足】

- ・本規定は ATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を、必ずしも満たすものではございません。
2. キーボード、マウス、モニタ、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品の KVM スイッチ、キーボード・マウスコンバータ、キーボード・マウスエミュレータ、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術サポート部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業推進部 TEL:03-5323-7170 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部 TEL :03-5323-7178 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATENジャパン製品保証規定.....	ii
製品についてのお問い合わせ.....	v
FCC.....	4
RoHS	4
安全にお使い頂くために	5
一般的な注意事項.....	5
ラックマウントに関する注意事項.....	7
同梱品	8
本マニュアルについて.....	9
マニュアル表記について	10
第1章 はじめに.....	11
製品概要	11
特長.....	13
本製品の導入によるメリット.....	14
システム要件	15
コンソール.....	15
コンピュータ	16
コンピュータモジュール	16
ケーブル.....	17
オペレーティングシステム	17
KM0216/KM0432 フロントパネル.....	18
KM0216/KM0432 リアパネル.....	20
第2章 ハードウェアセットアップ	22
概要.....	22
セットアップの前に.....	23
デバイスの卓上設置とラックマウント	23
卓上設置.....	23
ラックマウント(フロント部分を分離して設置する場合)	24
ラックマウント(ラックのフロント側に設置する場合)	26
単体セットアップ	28
接続図(単体構成)	29
複数段階構成のセットアップ.....	30

概要.....	30
デジチェーン接続	31
カスケード接続	34
デジチェーン接続・カスケード接続の組み合わせによる拡張方法	37
KM0216/KM0432 の接続形態.....	39
基本操作.....	40
デバイスをホットプラグする.....	40
電源を切る/再起動する	40
ポートを選択する.....	41
ポートIDの割り当て.....	41
ユーザー管理およびセキュリティ.....	42
第3章 OSD操作.....	44
OSD概要	44
OSDメイン画面における表示項目	48
OSDナビゲーション.....	48
OSD機能	49
F1 GOTO	49
F2 LIST	50
F3 SET	51
F4 ADM	53
F5 SKP	57
F6 BRC	58
F7 SCAN	59
F8 LOUT.....	60
第4章 ホットキー操作.....	61
ホットキーによるポート操作.....	61
ホットキーモードの起動	61
アクティブポートの選択	62
オートスキャン.....	63
スキップモード	65
ホットキーによるビープ音の切替	66
ホットキー一覧表.....	67
第5章 キーボードエミュレーション.....	68
Macキーボード.....	68
Sunキーボード	69
第6章 ファームウェアアップグレードユーティリティ.....	71

はじめに	71
目的.....	71
作業をはじめる前に.....	71
アップグレードの実行.....	73
アップグレードの開始.....	73
アップグレード失敗.....	76
ファームウェアアップグレードのリカバリー	77
付録.....	78
スイッチ台数と接続可能コンピュータ台数の対応表.....	78
KM0216 をデイジーチェーン接続した場合	78
KM0216 を 8 ポートKVMスイッチにカスケード接続した場合	78
KM0432 をデイジーチェーン接続した場合	79
KM0432 を 8 ポートKVMスイッチにカスケード接続した場合	79
製品仕様.....	80
工場出荷時における初期設定一覧	83
対応KVMスイッチ	84
その他接続図.....	85
ログイン情報のクリア	88
トラブルシューティング.....	89
Sunシステムに関するトラブル	90

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。



安全にお使い頂くために

一般的な注意事項

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために3ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせ適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源ケーブルやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源ケーブルを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。

- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しする場合は、以下の注意事項に従ってください。
 - 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
 - パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
 - お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサプライからすべての電源ケーブルを抜いてお使いのシステムから切り離してください。
- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源ケーブルが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。

ラックマウントに関する注意事項

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押してラックからデバイスの出し入れをする際にはスライドレールに指を挟まないようご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、注意してレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

KM0216/KM0432 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- | | |
|---------------------------------------|----|
| ◆ KM0216/KM0432 マトリックス KVM スイッチ | ×1 |
| ◆ 電源ケーブル | ×1 |
| ◆ ラックマウントキット (マウント用金具およびプラスネジ M3×8mm) | ×1 |
| ◆ フットパッドセット (4 個入り) | ×1 |
| ◆ 英語版ユーザーマニュアル | ×1 |
| ◆ 多言語版クイックスタートガイド | ×1 |

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、KM0216/KM0432 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

第1章 はじめに: KM0216/KM0432 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明しています。

第2章 ハードウェアセットアップ: KM0216/KM0432 の基本的なハードウェアセットアップの手順、および基本的な操作手順について説明します。

第3章 OSD 操作: KM0216/KM0432 の設定や操作を直感的に行える OSD(オンスクリーンディスプレイ)機能の詳細について説明します。

第4章 ホットキー操作: KM0216/KM0432 のホットキー操作に関する機能概要、および操作手順について説明しています。

第5章 キーボードエミュレーション: Mac キーボードのエミュレーション、また、Sun キーボードのエミュレーションについて対応表を用いて説明します。

第6章 ファームウェアアップグレードユーティリティ: お使いの KM0216/KM0432 のファームウェアを最新のバージョンにアップグレードする方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆

◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→

矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Runを選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

第1章 はじめに

製品概要

KM0216/KM0432 マトリックス KVM スイッチは、複数サーバを稼働させている大企業のシステム管理者に最適なソリューションです。オペレータは 2 組 (KM0216) / 4 組 (KM0432) のキーボード・マウス・モニタから最大 16 台 (KM0216) / 32 台 (KM0432) のコンピュータを直接操作することが可能です。また、デイジーチェーン接続により、最大 16 名 (KM0216) / 32 名 (KM0432) のオペレータが最大 2,048 台 (KM0216) / 4,096 台 (KM0432) のコンピュータにアクセスし、操作することができます。

マスターユニット(最も高いレベルの KM0216/KM0432) の 2 組/4 組のコンソールは、デイジーチェーン接続およびカスケード接続により接続されたすべてのコンピュータにアクセスすることが可能になっています。各スレーブユニット(デイジーチェーン接続された KM0216/KM0432)に属している 2 組/4 組のコンソールは、同じデイジーチェーン段階に直接接続、もしくはカスケード接続されたコンピュータにのみアクセスが可能です。

KM0216/KM0432 とコンソール/コンピュータの接続にはコンソールモジュール/コンピュータモジュール(共に別売)を使用します。コンソール/コンピュータモジュールの採用により、コンソール側は PS/2 および USB、コンピュータ側は PS/2・USB・Sun の各インターフェースに対応しています。KM0216/KM0432 と各モジュール間は LAN ケーブルで接続します。本体には ACS(自動信号補正)機能を搭載しているので最大 150m の延長が可能、リモート操作での高解像度表示を実現しました。接続に使用するのは KVM エクステンダーと同じカテゴリ 5e/カテゴリ 6 LAN ケーブルなので、設置も容易で経済的です。また RJ-45 コネクタ採用により、わずか 1U サイズの筐体でありながら 16 個 (KM0216) / 32 個 (KM0432) のコンピュータポートを備えていますので、システムラックの貴重なスペースを有効活用できます。

セットアップは非常に簡単で、ケーブルを適切なポートへ接続するだけです。KM0216/KM0432 にキーボードとマウスを接続するだけで、ソフトウェアのインストールも必要なく、互換性の問題に悩まされることもありません。

接続されたコンピュータへのアクセスは、キーボードからのホットキー入力、または、OSD(オンスクリーンディスプレイ) 画面のメニューから行います。また、便利なオートスキャン機能により、接続されたコンピュータを順に自動的に切替表示し、1 台 1 台監視することもできます。

特長

- ◆ 2組/4組のコンソールからコンピュータを16台/32台までコントロール可能
- ◆ 製品1台に対し、最大7台のユニットを追加してデジチェーン接続することが可能
- ◆ カスケード接続されたステーション1台に対し、16台/32台の対応KVMスイッチをカスケード接続することが可能
- ◆ デジチェーン接続/カスケード接続されたすべてのコンピュータは最大16箇所/32箇所のコンソールから操作することが可能
- ◆ コンパクト設計 - 19インチシステムラックにおいて1Uサイズでのマウントが可能
- ◆ マルチプラットフォーム対応: PC 互換 OS (Windows、Linux)、Mac、Sun
- ◆ コンソール変換対応 - デュアルインターフェース-コンピュータ、コンソールともにPS/2またはUSBのキーボード・マウスの使用が可能であるため、どのような組み合わせにも対応
- ◆ PS/2キーボード・マウス エミュレーション - KVMコンソールの選択ポートにかかわらず、コンピュータはブート時のエラーを回避して起動
- ◆ ホットプラグ対応 - KVMスイッチの電源を切ることなくコンピュータの追加や取り外しが可能
- ◆ ソフトウェア不要 - ポートの切替方法として、ホットキーおよびOSDメニューを提供
- ◆ デジチェーン接続の構成におけるステーション位置を自動認識 - ステーション位置はOSDおよび製品フロントパネルのLEDで表示
- ◆ ステーションの順序を変更した際に、ポートネームを自動的に再設定
- ◆ OSD表示はモニタの解像度に合わせて自動調整
- ◆ ユーザーが指定したコンピュータのみを自動的に監視するオートスキャン機能
- ◆ 3段階のユーザーレベル: Super Administrator、Administrator、User
- ◆ LCD、VGA、SVGA、XGA、マルチシンクモニタ対応、DDC2B準拠
- ◆ VGA解像度 - 1,024×768@60Hz(最大150m)、1,920×1,440@60Hz(延長距離はシステム環境に依存)
- ◆ 自動信号補正(ASC)により、スイッチとコンピュータまでの距離を150m延長した場合も最適なVGA解像度で表示、ディップスイッチ等の設定不要
- ◆ ファームウェアアップグレード対応
- ◆ デジチェーン接続の環境下においては、デジチェーンケーブル経由で全KVMスイッチに同時にファームウェアアップグレードを実行

本製品の導入によるメリット

マトリックス KVM スイッチ KM0216/KM0432 は、デバイスに接続されているコンピュータを 1 箇所のコンソールから管理することができますので、作業時間の短縮と費用の節減に適した製品です。本製品の導入によって、以下のようなメリットを得ることができます。

- ◆ 各コンピュータに、キーボード、モニタ、マウスをそれぞれ購入する必要がなくなる。
- ◆ コンソールデバイスが占有するスペースを削減することができる。
- ◆ 光熱費を削減することができる。
- ◆ 作業するコンピュータを変えるたびに移動しなければならない手間が省ける。
- ◆ 分散した場所にセットアップされたコンピュータを一元管理することが可能である。

システム要件

コンソール

各コンソールには以下のハードウェア環境が必要です。

- ◆ 使用するコンピュータの解像度のうち最も高いものが表示可能なVGA、SVGA、マルチシンクモニター
- ◆ PS/2 または USB に対応した、キーボードおよびマウス

KVM コンソールを KM0216/KM0432 に接続するにはコンソールモジュールが必要です。コンソールモジュールは、KVM コンソール側で PS/2 および USB インターフェースが混在していても、適切なものをコンピュータに接続することで、インターフェース間の差異を吸収することができます。KM0216/KM0432 に対応したコンソールモジュールは下表のとおりです。詳細については販売店までご連絡いただくか、お使いのコンソールモジュールに同梱された説明書をご確認ください。

製品画像	機能	型番	コネクタ仕様
	PS/2 コンソールを接続し、カテゴリ 5LAN ケーブルで KM0216/KM0432 と接続し、リモートコントロールを形成。KVM ケーブルを使用しローカルコンピュータを接続。	KA9222A	キーボード用ミニ DIN6 ピン メス マウス用ミニ DIN6 ピン メス モニター用 D-sub15 ピン メス
	PS/2 または USB コンソールを接続し、カテゴリ 5LAN ケーブルで KM0216/KM0432 と接続し、リモートコントロールを形成。KVM ケーブルを使用しローカルコンピュータを接続。画像のゲインコントロールが可能。	KA9233	キーボード用ミニ DIN6 ピン メス マウス用ミニ DIN6 ピン メス USB タイプ A メス ×2 モニター用 D-sub15 ピン メス
	USB コンソールを接続し、カテゴリ 5LAN ケーブルで KM0216/KM0432 と接続し、リモートコントロールを形成。KVM ケーブルを使用しローカルコンピュータを接続。	KA9272A	USB タイプ A メス モニター用 D-sub15 ピン メス

コンピュータ

使用する各コンピュータには以下のハードウェアコンポーネントに対応している必要があります。

- ◆ D-sub15 ピン対応、またはレガシーSun システム用の Sun13W3 ビデオポートに対応した VGA、SVGA、マルチシンクビデオグラフィックカード
- ◆ 以下のいずれかの条件を満たすマウスおよびキーボードの利用環境
 - PS/2 対応マウス、キーボードポート(ミニ DIN 6 ピン)
 - USB ポート(1 ポート以上)
 - レガシーSun 用 Sun キーボードポート(ミニ DIN 8 ピン)


コンピュータモジュール

コンピュータモジュールはマルチプラットフォームのコンピュータ(PS/2、USB、Sun、Mac およびシリアル対応)および KM0216/KM0432 にカスケード接続された KVM スイッチに接続します。現在のコンピュータモジュールのラインナップは下表のとおりです。詳細については販売店までお問い合わせください。

製品画像	機能	型番	コネクタ仕様
	PS/2 タイプコンソールポートを持つコンピュータとの接続	KA9120	キーボード用ミニ DIN6 ピン オス マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニタ用 D-sub15 ピン オス
	USB コンソールポートを持つコンピュータとの接続	KA9170	USB タイプ A オス モニタ用 D-sub15 ピン オス
	Sun 13W3 コンソールポートを持つコンピュータとの接続	KA9130	ミニ DIN8 ピン オス 13W3 オス
	Sun USB コンソールポートを持つコンピュータとの接続 ※2008 年販売終了、KA9170 に機能統合	KA9131	USB タイプ A オス モニタ用 D-sub15 ピン オス
	VT100 ターミナル対応	KA9140	D-sub15 ピン メス ミニ DIN6 ピン メス RS-232C DB-9 ピン メス

ケーブル

KM0216/KM0432 をご利用の際には以下のケーブルが必要です。

製品画像	機能	型番(長さ)
	デジチェーン専用ケーブル	
	スイッチ側 DB-25 オス	2L-1700KM(0.6m) 2L-1701KM(1.2m)
	コンピュータ側 DB-25 メス	2L-1704KM(4m)

KM0216/KM0432 とコンソールモジュール、また、コンピュータモジュールとKM0216/KM0432 の接続(p.85参照)にはカテゴリ 5 ケーブルをご使用ください。

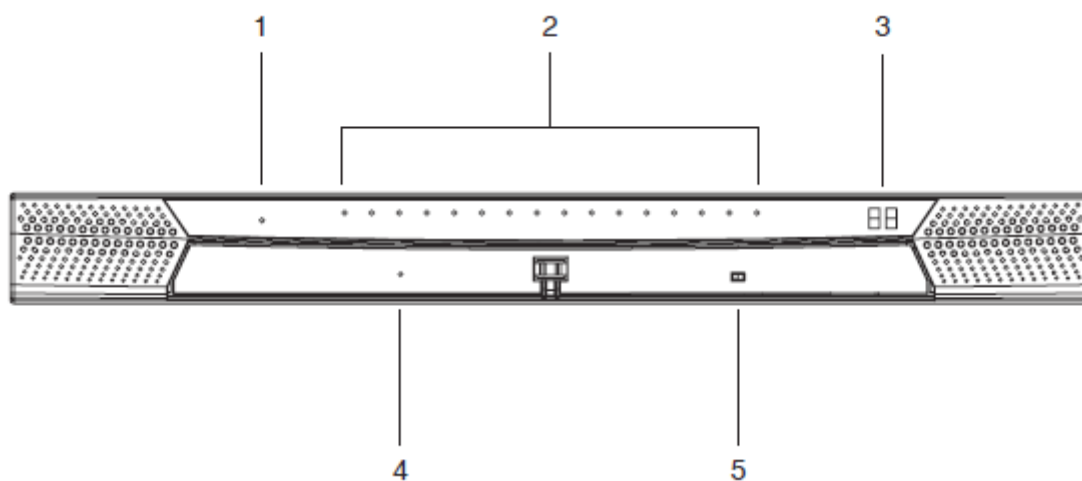
オペレーティングシステム

本製品に対応したオペレーティングシステムは下表のとおりです。

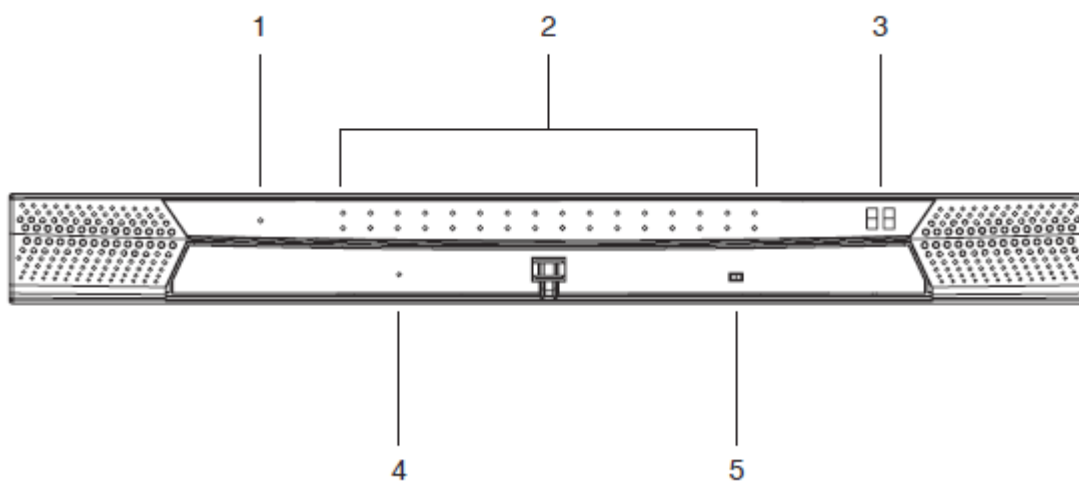
OS		バージョン
Windows		2000、XP 以降
Mac		OS8.6、9.0、9.1、X、10.1、10.2、10.3 以降
Linux	RedHat	6.0、7.1、7.2、7.3、8.0 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
	SuSE	8.2 以降
Unix	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	3.51、4.2、4.3、4.5 以降
	Sun	Solaris8 以降
Novell	Netware	5.0、6.0 以降
OS/2		Ver.2.0
DOS		6.22

KM0216/KM0432 フロントパネル

KM0216



KM0432



1. 電源 LED ランプ

KM0216/KM0432 に電源が供給されていることを示します。

2. ポート LED ランプ

ポート LED は 3 色(オレンジ/レッド/グリーン)です。それぞれ対応する各コンピュータポートに関する状態を以下のように表示しています。

色	状態	意味
オレンジ	点灯	ポート選択され、接続されたコンピュータの電源がオン
	点滅	ポート選択され、カスケード接続された KVM の電源がオン
レッド	点灯	ポート選択され、接続されたコンピュータの電源がオフ
グリーン	点灯	ポート選択されておらず、接続されたコンピュータの電源がオン
	点滅	ポート選択されておらず、カスケード接続された KVM の電源がオン
オフ		ポート選択されておらず、接続されたコンピュータの電源がオフ

3. ステーション ID LED ランプ

KM0216/KM0432 のステーションIDは、ここに表示されます。単体使用時(p.28参照)、もしくはデジチェーン使用時(p.30参照)の 1 段階目にある時は、ステーションIDは、**01**と表示されます。

デジチェーン接続では、KM0216/KM0432 の位置が何段階目にあるのか自動的に検出し、その位置と一致するステーションIDが表示されます。(ポートIDの詳細はp.41参照)

4. リセットスイッチ

このスイッチを押すことでシステムをリセットします。

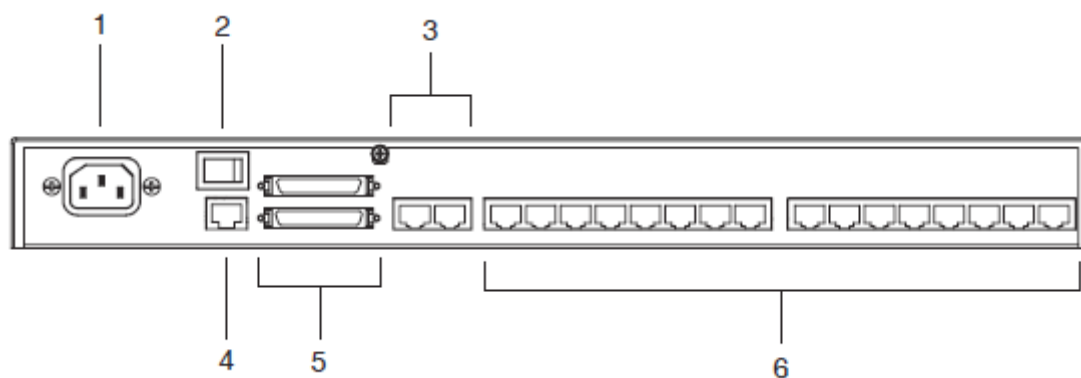
注意: このスイッチはピンホール型になっているので、ペーパークリップやボールペンなど、先端の細い物を使って押してください。

5. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ

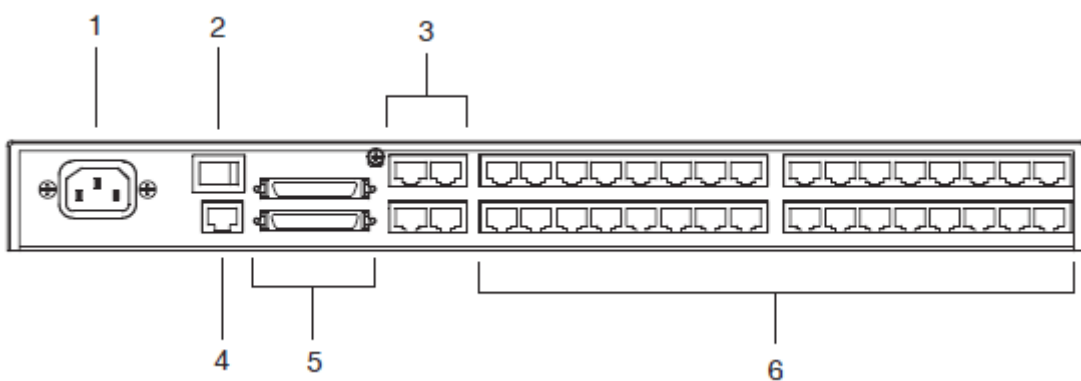
通常操作時/ファームウェアアップグレード時は、このスイッチをNORMALの位置にあわせてください。ファームウェアアップグレード中、なんらかの問題で正常に完了しなかった場合に、スイッチをRECOVERの位置にあわせてリセットボタンを押すと、アップグレード直前の状態に戻ります。詳しくはp.71をご参照ください。

KM0216/KM0432 リアパネル

KM0216



KM0432



1. 電源ソケット

同梱の電源コードでユニットと AC 電源コンセントを接続します。

2. 電源スイッチ

ユニットの電源オン/オフを行います。

3. コンソールポートセクション

コンソールモジュールに接続された LAN ケーブルを接続します。

4. ファームウェアアップグレードポート

KM0216/KM0432 のファームウェアをアップグレードする場合、管理者のコンピュータに接続されたファームウェアアップグレードケーブルを、このRJ-45 コネクタに接続します(p.71参照)。

5. デイジーチェーンポート

デイジーチェーン接続時(p.31参照)に、デイジーチェーンケーブルを、このポートに接続します。親機のChain Outポートと子機のChain Inポートを接続します。マスターユニット(1 段階目)になる KM0216/KM0432 の Chain Inポートは使用しません。

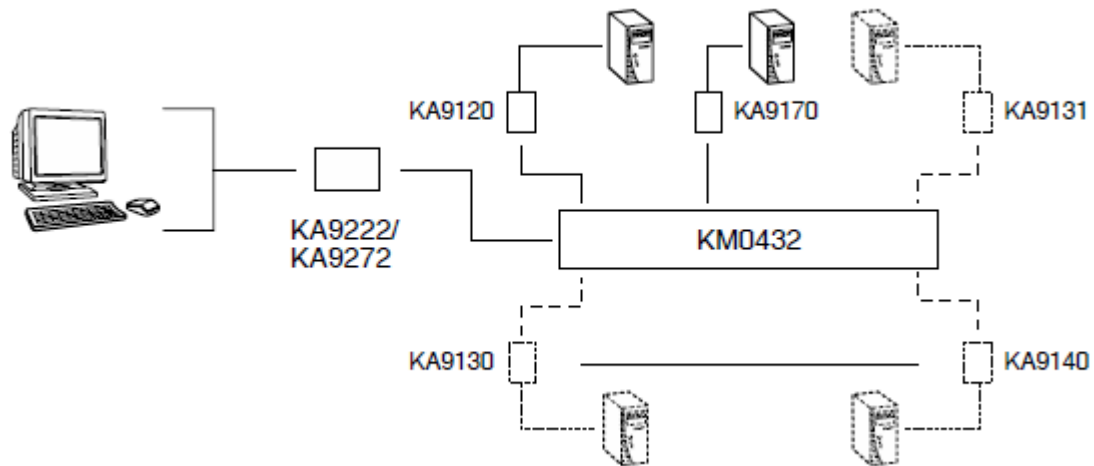
6. コンピュータポートセクション

KM0216/KM0432 にリンクする KVM ケーブルに接続された LAN ケーブルを接続します。

第2章 ハードウェアセットアップ

概要

PS/2 や USB インターフェースが混在した環境でも便利で柔軟にお使いいただけるように、KM0216/KM0432 は、KVM コンソールと KVM スイッチ間の信号変換媒体として機能するコンソールモジュール、および KVM スイッチとコンピュータ間の媒体として機能するコンピュータモジュールといった機器を使用した設計を採用しております。



コンソールモジュールはKVMコンソールごとに、また、コンピュータモジュールはコンピュータごとにそれぞれご用意ください。コンソールモジュールおよびコンピュータモジュールの詳細についてはp.15またはp.16をご参照ください。また、お使いの環境で必要になるコンソールモジュールやコンピュータモジュールの型番の詳細については、お手数ですが販売店までお問い合わせください。

注意: 以下、セットアップの方法は、KM0432 を使用した場合の接続図を使って説明します。KM0216 はポート数を除けば KM0432 と同様の設計になっておりますので、KM0216 をお使いの場合も、KM0432 の接続図をご自身の環境に置き換えて作業を進めてください。

セットアップの前に



1. 機器の設置に際し重要な情報をp.5に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。
3. 接続に使用するすべての装置が正しく接地されていることを確認してください。
4. キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。

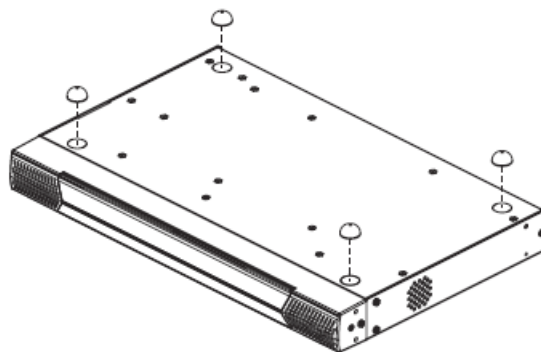
デバイスの卓上設置とラックマウント

KM0216/KM0432 は卓上に置いて使用したり、ラックのフロント側・リア側にマウントして使用したりすることができます。下記のセクションでは KM0216/KM0432 の卓上設置とラックマウントの方法について説明します。

注意: 機器への通気を確保するために、製品の両側面は 5.1cm 以上、また、背面はケーブル類の配線を考慮して 12.7cm 以上の空間をもうけるようにしてください。

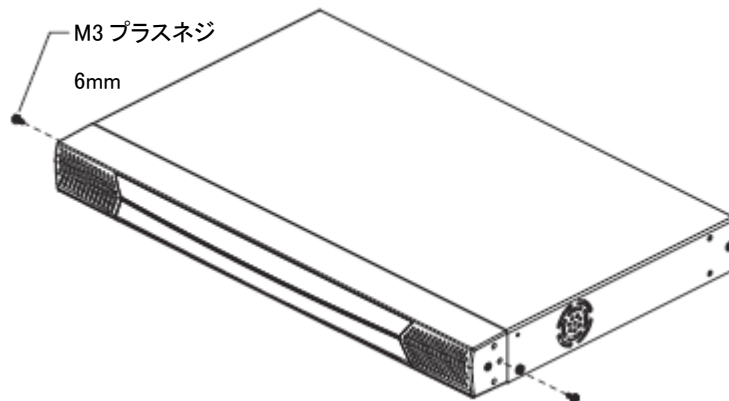
卓上設置

KM0216/KM0432 は製品本体と同梱ケーブルの重量に耐えられる場所であれば、どんな場所でも設置することが可能です。セットアップを開始する前に、製品の表面に汚れや傷がついておらず、排気口をさえぎるものや KVM スイッチの操作に支障をきたすものがないことを確認してください。KM0216/KM0432 本体を水平な場所に置く際には、同梱ゴム製フットパッドの裏面のはくり紙をはがし、下記の図のように KM0216/KM0432 底面の四隅に貼り付けてください。

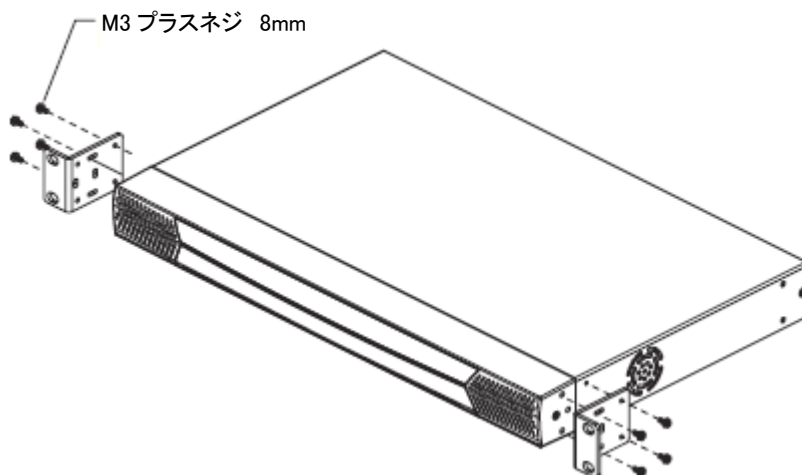


ラックマウント(フロント部分を分離して設置する場合)

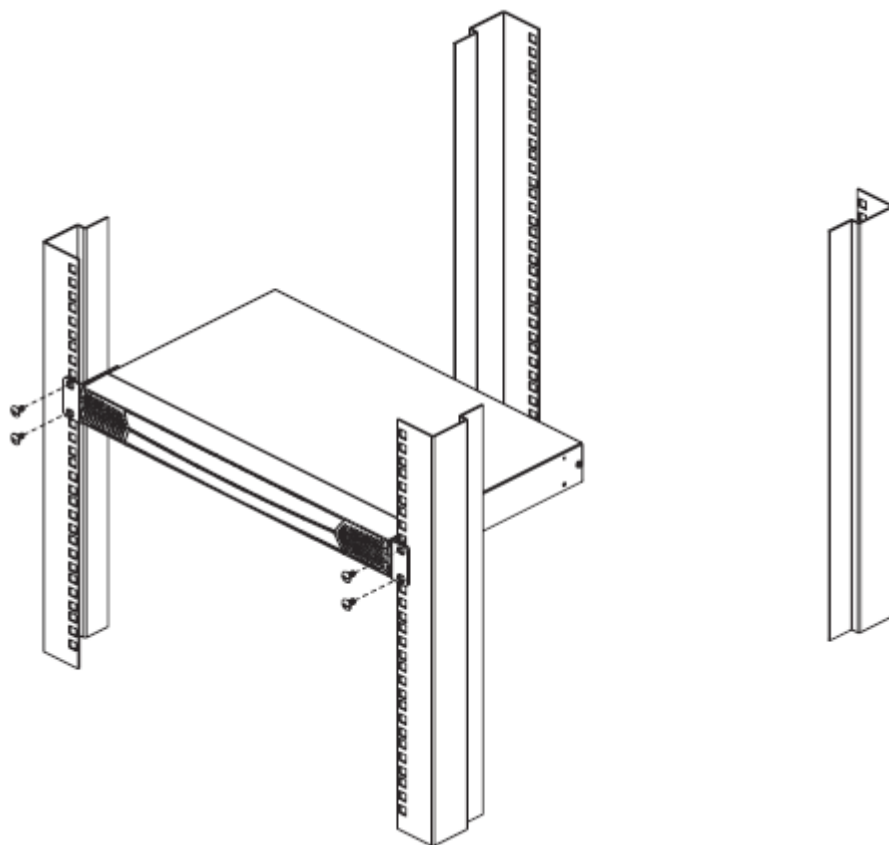
1. 製品の側面についているネジ(フロント側とリア側の各 2 箇所)をはずしてください。フロント側のネジは取り外し可能なフロントパネルを固定しているものです。



2. フロントパネルを本体からはずしてください。このとき、フロントパネルと本体につながっているケーブルは取り外さないように注意してください。製品同梱のラックマウントキットに付属している M3 プラスネジ(8mm)を使って、フロントパネルおよび本体にラックマウント用の金具を下図のように取り付けてください。

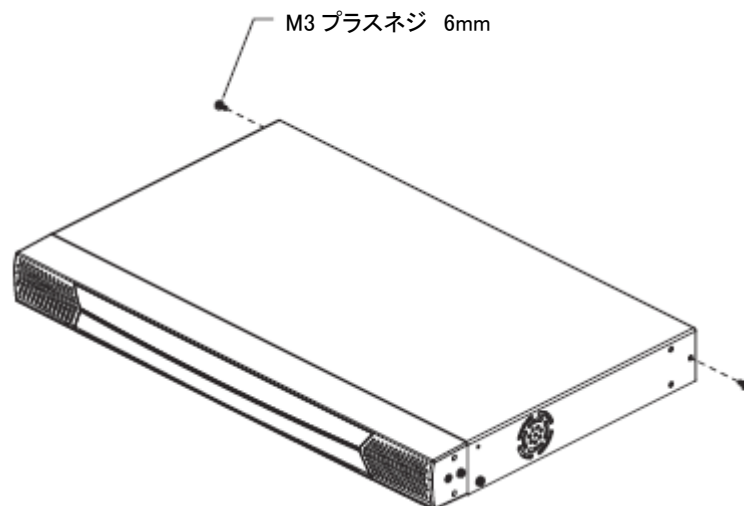


3. 手順 2 で製品に取り付けた金具の穴がシステムラックの穴に合うように製品を固定し、下図のようにシステムラックのフロント側にフロントパネルを、リア側に製品本体をそれぞれネジ止めしてください。

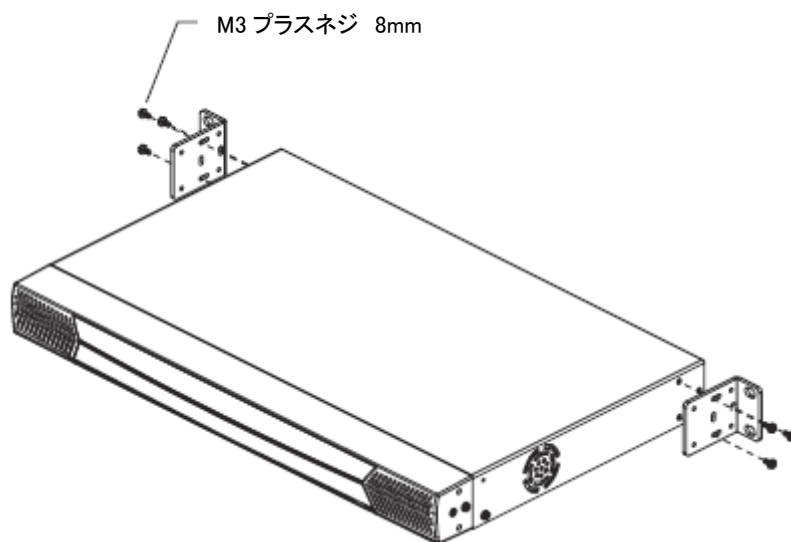


ラックマウント(ラックのフロント側に設置する場合)

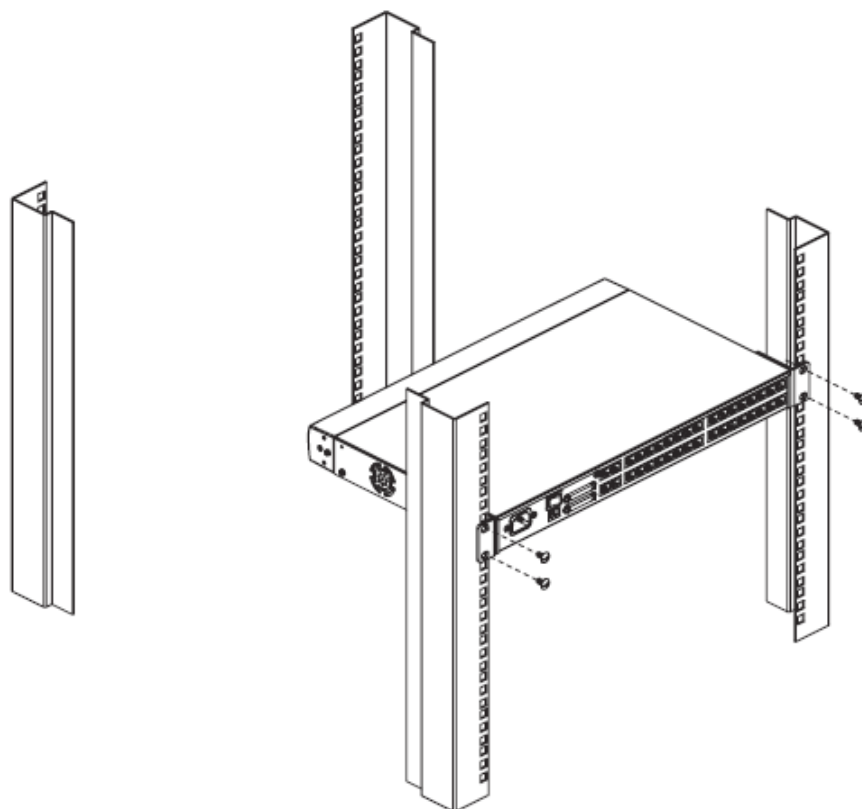
1. フロントパネルを製品本体に固定しているネジを2箇所外してください。



2. 製品に同梱されたラックマウントキットに付属している M3 プラスネジ(8mm)を使って、ラックマウント用金具を下図のように製品側面のフロント側にネジ止めしてください。



3. 手順 2 で製品に取り付けた金具の穴がシステムラックの穴に合うように製品を固定し、下図のようにシステムラックのフロント側にネジ止めしてください。



単体セットアップ

単体セットアップはデイジーチェーンやカスケード接続時を行わず、1 台のみのKVMスイッチの導入となります。この単体セットアップに関する図 (p.29) を参照しながら、下記の手順に従って作業を行ってください。

1. コンソールをコンソールモジュールへ接続します。
キーボード、マウス、モニタをコンソールモジュールのポートへ接続してください。各ポートは、それぞれのアイコン表示にて確認できます。
2. コンソールモジュールと KM0216/KM0432 を接続します。
コンソールモジュールの Link ポートに、カテゴリ 5 LAN ケーブルの一端を接続し、もう片方を KM0216/KM0432 リアパネルにあるコンソールポートに接続します。このポートへは最大 2 組/4 組のコンソールを接続できます。

注意:

1. コンソールモジュールは、KM0216/KM0432 からの距離が 150m 以内になるようにセットアップしてください。
2. コンソールモジュールと KM0216/KM0432 の接続には、カテゴリ 5 に対応した STP ケーブルの使用を推奨します。

(コンソールの追加も、同様に手順 1~2 の作業を繰り返してください)

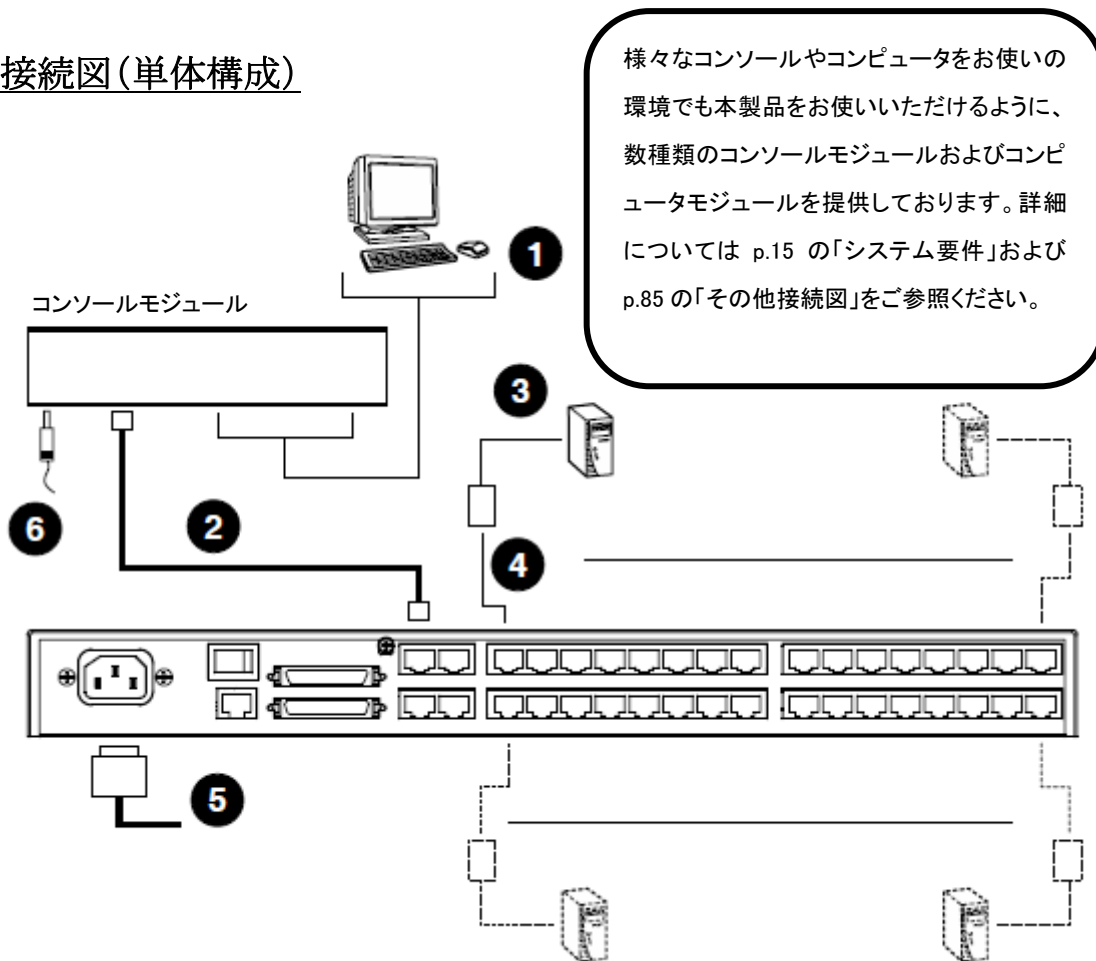
3. コンピュータモジュールと KM0216/KM0432 を接続します。
カテゴリ 5 LAN ケーブルの一端をコンピュータ側ポートへ接続し、もう片方をコンピュータモジュールの Link ポートへ接続します。
4. コンピュータモジュールのケーブルをコンピュータへ接続します。
使用するコンピュータ側の適切なポートへ、コンピュータモジュールを接続してください。

注意: コンピュータモジュールは、KM0216/KM0432 からの距離が 150m 以内になるようにセットアップしてください。

(コンピュータの追加も、同様に手順 3~4 の作業を繰り返してください)

5. すべてのコンピュータの接続完了後に、電源コードのメスコネクタ側を KM0216/KM0432 に接続し、その後、電源コードのオスコネクタ側を AC 電源に接続してください。
6. それぞれのコンソールモジュールの電源アダプタを AC 電源に接続し、その後、電源アダプタケーブルをユニットの電源ジャックに接続してください。
7. KM0216/KM0432 の電源をオンにします。
8. コンピュータの電源をオンにします。

接続図(単体構成)



複数段階構成のセットアップ

KM0216/KM0432 を複数台接続することによって、製品に追加できるコンピュータの台数を増やすことが可能です。KM0216/KM0432 では以下の拡張方法に対応しております。

- ◆ デイジーチェーン接続
- ◆ カスケード接続
- ◆ デイジーチェーン接続+カスケード接続

概要

デイジーチェーン接続とは、専用ポートを使って 2 台のKVMスイッチを接続する方法のことを言います。この場合、スイッチ同士は、1 本の数珠繋ぎのような接続になります(p.33参照)。

デイジーチェーン接続では、専用ポートを使い接続しますので、コンピュータポートを他のKVMスイッチの接続に使用することはありません。つまり、デイジーチェーン接続されたKVMスイッチのすべてのコンピュータポートを利用できます。例えば、KM0432は32個のコンピュータポートがあり、デイジーチェーンにより8台接続されると、 $32 \times 8 = 256$ 個のコンピュータポートを利用できます。

カスケード接続では、親機となるKVMスイッチのコンピュータポートから、子機となるKVMスイッチへ接続します(上の段階から下の段階へと接続)。親機KVMスイッチからたくさんの子機KVMスイッチが下へと接続され、滝の広がりのような接続になります。このカスケード接続では、親機となるKVMスイッチはコンピュータポートをそれぞれの子機KVMスイッチの接続のために1つ占有されることとなります。

KM0216/KM0432 は、デイジーチェーンとカスケードの接続方法にそれぞれ対応しています。さらにこの2つの接続方法を組み合わせて使用することもできますので、本製品によって拡張性と柔軟性に富んだ大規模なシステム構成が実現可能です。次セクションより、様々な多段階セットアップについて説明します。

デージーチェーン接続

KM0216/KM0432 の追加接続には、最大 7 台まで一連のデージーチェーン接続が可能です。それぞれの KM0216/KM0432 は個別に 4 組のコンソールが接続可能です。1 段階目の KM0216/KM0432 がマスターユニットになり、下の段階へデージーチェーン接続された KM0216/KM0432 がスレーブユニットになります。

デージーチェーンで最大限に接続した場合、マスタースイッチに接続された 2 組/4 組 (KM0216/KM0432) のコンソールは、接続された全てのコンピュータ(最大 128 台/256 台)にアクセスし操作することが可能です。それぞれのスレーブユニットに接続された 2 組/4 組のコンソールからは、同じユニットに接続されたコンピュータ(最大 16 台/32 台)にのみアクセスしコントロール可能になります。(KVMスイッチの台数とコントロール可能なコンピュータ台数をまとめた表は、p.78をご参照ください)

デージーチェーンのセットアップ方法に関する図 (p.33) を参照し下記の手順に従って接続してください。

1. 接続する全てのデバイスの電源をオフにしてください。
2. デージーチェーンケーブル(p.17参照)を使用し、親機KM0216/KM0432 の Chain Outに接続し、子機KM0432 の Chain Inに接続してください。(1 段階目のOutから、2 段階目のIn、2 段階目のOutから、3 段階目のIn …)

注意: 1 段階目の親機になる KM0216/KM0432 の Chain In ポートは使用しません。

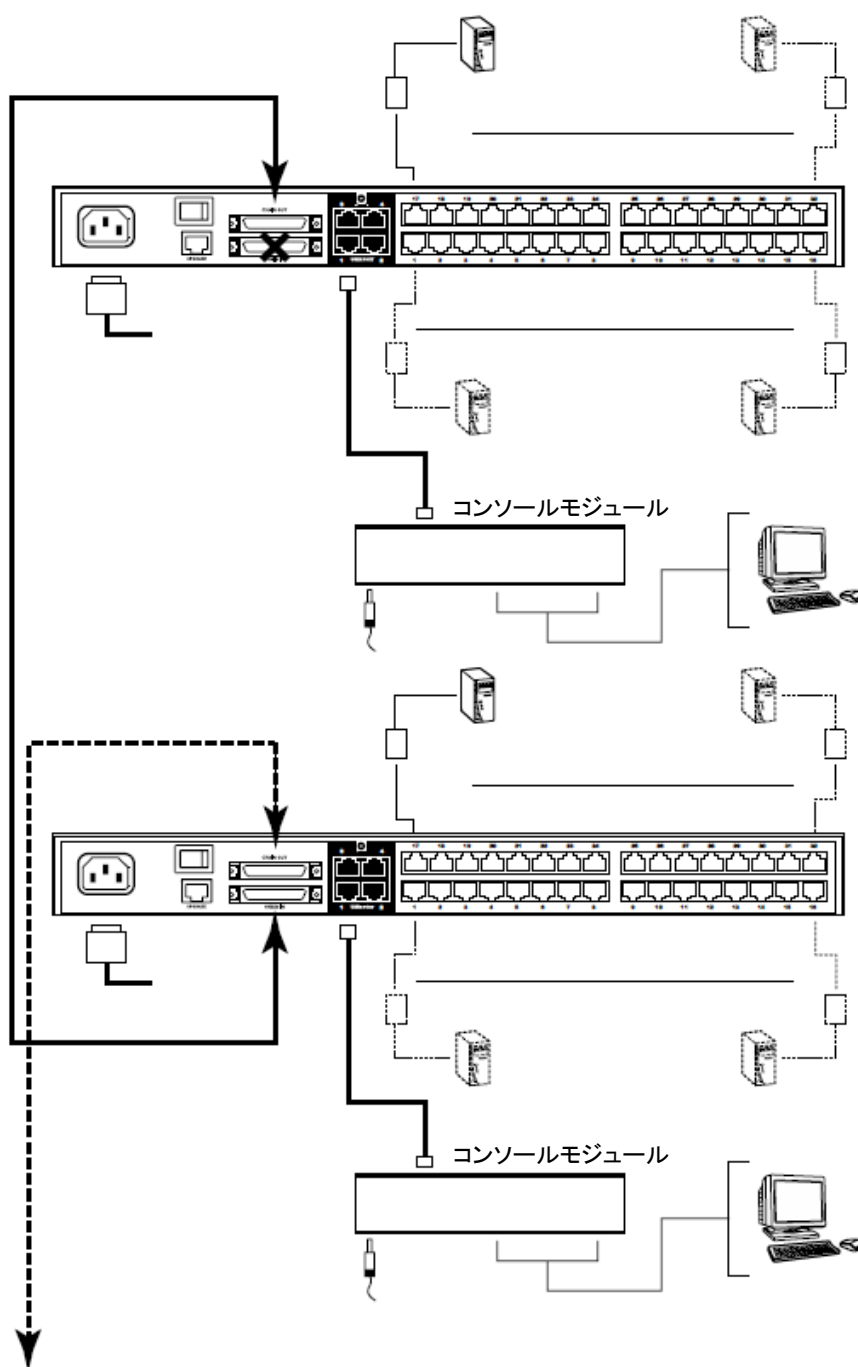
3. 追加のコンソールを接続する場合は、p.28の単体セットアップで述べた手順に従い接続してください。
4. コンピュータモジュール(p.16参照)をKM0216/KM0432 の利用可能なコンピュータポートへ接続し、コンピュータ側のキーボード・マウス・モニタの各ポートへ接続します。

(他にも KM0216/KM0432 を追加してデージーチェーン接続する場合は、上記の手順を繰り返してください。)

5. 電源コードをKM0216/KM0432のソケットへ接続し、オスコネクタ側をAC電源へ接続してください。
6. 以下の手順に従って接続先の電源をオンにしてください。
 - a) 1段階目のステーションの電源をオンにします。ユニットのステーションID(ステーションIDは、1段階目は01、2段階目は02、3段階目は03・・・順に表示)と各ポートID LEDが表示されるまでお待ちください。
 - b) 順に他のステーション(2段階ステーション、3段階ステーション・・・)の電源もオンにします。各ステーションのステーションIDとポートID LEDが表示されたのを確認してから、次段階のステーションの電源をオンにします。
 - c) すべてステーションの電源がオンになった後で、各コンピュータの電源をオンにしてください。

接続図(デイジーチェーン接続)

様々なインターフェースやプラットフォームをお使いの環境でも本製品をお使いいただけるように、数種類のコンピュータモジュールを提供しております。詳細については p.15 の「システム要件」および p.85 の「その他接続図」をご参照ください。



カスケード接続

サーバ構成を拡張する場合でも、KM0216/KM0432 のコンピュータポートに他の KVM スイッチをカスケード接続することで対応できます。最大 16 台/32 台の KVM スイッチを増設できますが、デ이지ーチェーン接続の場合と違い、カスケード接続の場合はコンピュータを操作するコンソールを増やすことはできません。

-
- 注意:**
1. KM0216/KM0432 同士をデ이지ーチェーン接続はできますが、カスケード接続はできません。
 2. 2 段階を越えるカスケードはできません。
-

カスケード接続の場合、KM0216/KM0432 は 1 段階目のユニットとみなされ、カスケードされた KVM は、2 段階目のユニットとみなされます。KM0216/KM0432 は、2 タイプのカスケードに対応しています。

1 段階目の KM0216/KM0432 と同じデータ転送プロトコルを使用する互換スイッチは各スイッチの OSD を統合しますので、1 段階目の KM0216/KM0432 のコンソールが OSD を起動すると、ポートディレクトリはカスケード接続されたスイッチに接続されたすべてのコンピュータを一覧表示します。カスケード接続可能な最大台数でセットアップを行った場合、1 台の KM0216/KM0432 から 128 台/256 台のコンピュータを操作することができます。

-
- 注意:** KM0216/KM0432 とカスケード接続可能な KVM スイッチの機種に関する詳細は、p.84 をご参照ください。
-

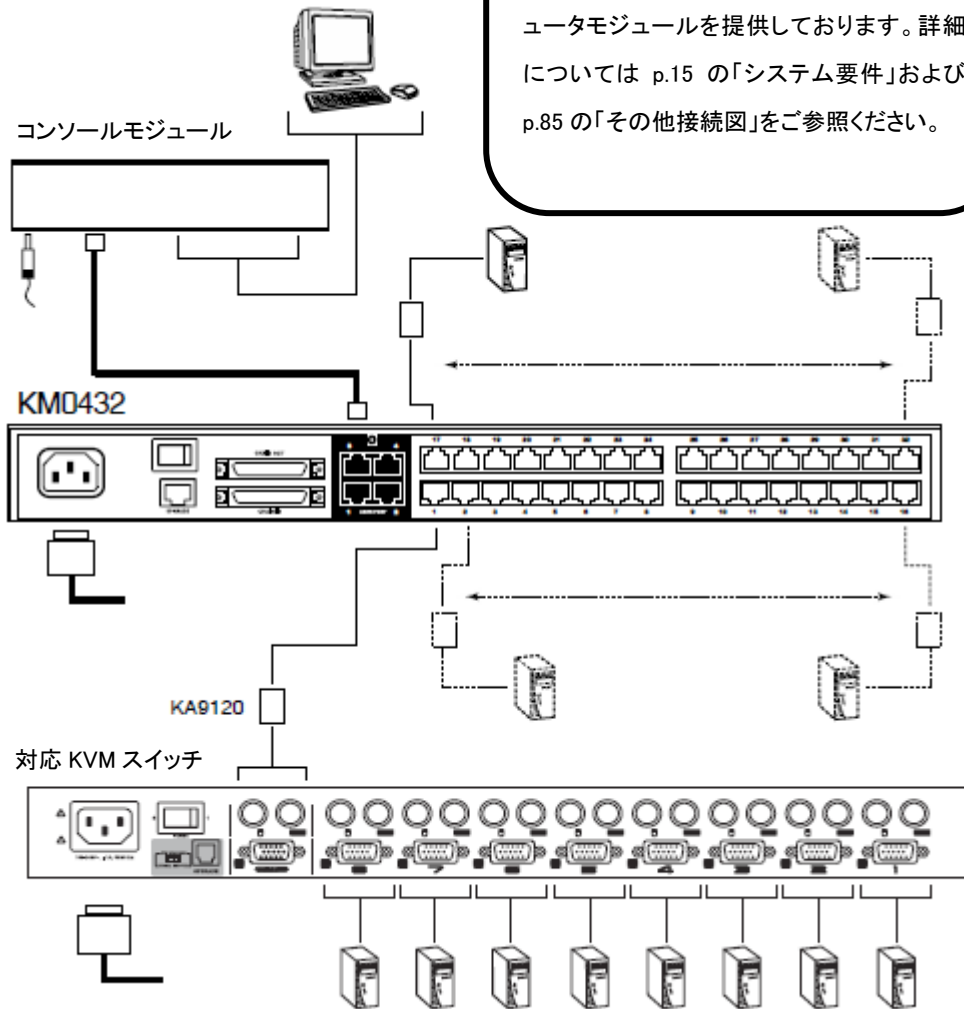
KM0216/KM0432 をカスケード接続してお使いになる場合は、p.36 の接続図を参考にしながら、以下の手順に従ってセットアップを進めてください。

1. 接続する全てのデバイスの電源をオフにしてください。
2. 1 段階目のユニット(KM0216/KM0432)の接続可能なコンピュータポートにカテゴリ 5 LAN ケーブルを接続し、片方の端を、PS/2 対応のコンピュータモジュール(p.16 参照)に接続します。コンピュータモジュールのキーボード・マウス・モニタの各コネクタを 2 段階目のユニットの各コンソールポートに接続します。

注意: KM0216/KM0432 から 2 段階目のユニットまでの距離は、150m 以内です。

3. 2段階目のユニットで使用するKVMケーブル(2段階目のKVMスイッチのマニュアル参照)を接続可能なコンピュータポートへ接続し、コンピュータ側も同様にキーボード・マウス・モニタの各ポートへ接続します。
4. 2段階目で使用するユニットの電源アダプタをAC電源に接続し、電源アダプタケーブルをユニットの電源ソケットに接続します。
5. 2段階目に接続する他のユニットがある場合は、同様にステップ2~4を繰り返して接続してください。
6. 1段階目のユニットの電源を入れた後、2段階目以降のユニットにもすべて電源を入れてください。
7. すべてのKVMスイッチに電源が入ったことを確認したら、接続されているコンピュータに電源を入れてください。

接続図 (カスケード接続)



様々なコンソールやコンピュータをお使いの環境でも本製品をお使いいただけるように、数種類のコンソールモジュールおよびコンピュータモジュールを提供しております。詳細については p.15 の「システム要件」および p.85 の「その他接続図」をご参照ください。

デージーチェーン接続・カスケード接続の組み合わせによる拡張方法

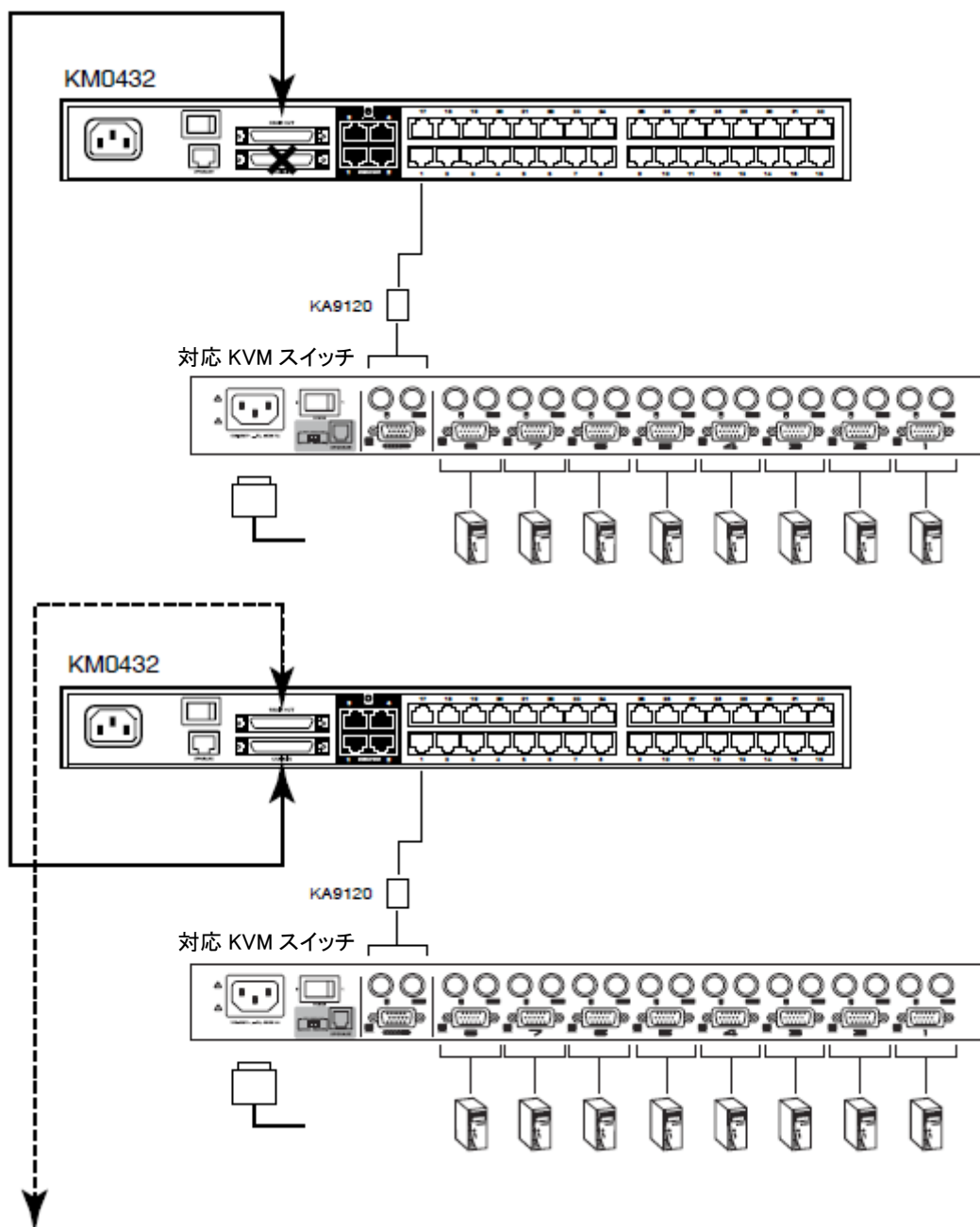
KM0216/KM0432 ユニットの他のKM0216/KM0432 ユニットのデージーチェーン接続することによって大規模なKVMマトリックスを構築することができます。最大でデージーチェーン接続された8台のKM0216/KM0432は、各ポートに対応KVMスイッチをそれぞれ1台カスケード接続することができますので、この場合、1024台/2048台のコンピュータおよび32コンソールの使用が可能になります。なお、対応KVMスイッチの詳細についてはp.84に記載されていますので、そちらをご参照ください。

マスターユニットのKM0216/KM0432に接続された2組/4組のコンソールからは、接続先のすべてのKVMスイッチ、すべてのポートにアクセスしコントロールすることが可能です。スレーブユニットの個々のKM0216/KM0432に接続された2組/4組のコンソールは、下位にカスケード接続されたKVMスイッチとポートにのみ、アクセスしコントロールすることが可能です。

デージーチェーン接続とカスケード接続を組み合わせるKM0216/KM0432をセットアップする場合は、p.38の接続図を参考にしながら以下の手順でセットアップを進めてください。

1. p.31「デージーチェーン接続」およびp.34「カスケード接続」の各セクションの内容にしたがって、デバイスにケーブルを接続してください。
2. p.31「デージーチェーン接続」のセクションの内容に従い、デージーチェーン接続されたKM0216/KM0432に電源を入れてください。
3. デージーチェーン接続されたすべてのKM0216/KM0432に電源を入れた後、カスケード接続されたユニットの電源を入れてください。
4. カスケード接続されたすべてのユニットに電源が入ったことを確認してから、接続されているコンピュータに電源を入れてください。

接続図 (デイジーチェーン接続 + カスケード接続)



KM0216/KM0432 の接続形態

コンピュータコネクタに使用する RJ-45 は、ACS(Auto Signal Compensation: 自動信号補整)機能により、150メートル(500フィート)の延長に耐え、信頼性の高い高解像度のビデオ信号が伝送されます。KM0216/KM0432 の接続にはカテゴリ 5e/カテゴリ 6 LAN ケーブルを使用するので、商業用ビルにも簡単に導入できるのが特長です。

注意: KM0216/KM0432 に使用するカテゴリ 5 LAN ケーブルを延長可能な距離を超えて延長した場合、性能とビデオ品質は低下します。

データ伝送に使用される信号は、パケットデータではありませんので、ネットワーク接続に使用するハブやルータを使用することはできません。信号劣化の要因になりますが、パッチパネルやパッチケーブルなどの結線をするものは使用できます。

基本操作

デバイスをホットプラグする

KM0216/KM0432 はホットプラグに対応しています。コンポーネントのケーブルの抜き差しや、ポートへの追加接続は、ユニットの電源をオフにすることなくできます。ホットプラグの手順については下記をご参照ください。

ステーション位置の変更

ダイジーチェーン接続の場合、上位段階の親機からプラグを抜いて新しく接続しステーション位置を変更してください。

コンソールポートのホットプラグ

キーボード・マウス・モニタはホットプラグに対応しています。マウスを新しく交換後に何か問題が生じた場合、KM0216/KM0432 のフロントパネルにあるシステムリセット(p.19参照)を実行してください。もし、これでも問題が解決しない場合は、問題があるコンピュータを再起動させてください。

電源を切る/再起動する

KM0216/KM0432 の電源オフを実行してもコンピュータ側には影響しません。KM0216/KM0432 を再起動しても直後からコントロール可能になります。KM0216/KM0432 の交換時も単にユニットの電源をオフにし、ケーブルプラグを抜き、新しいユニットに接続し、その後新しいユニットの電源をオンにしてください。

注意: 再起動後にコンピュータ側の動作が不安定な場合は、コンピュータ側を再起動させてください。

ポートを選択する

ポート切替は、キーボードからのホットキー入力、または KM0216/KM0432 の OSD(On Screen Display)からの入力によって可能です。OSD 操作についての詳細は次の章を、ホットキー操作についての詳細は第 4 章をご参照ください。

1 段階(単体)接続の場合はホットキー操作が便利ですが、複数段階に及ぶデイジーチェーン接続、カスケード接続、また両接続を組み合わせてセットアップされている場合は、OSD を使って操作することを強く推奨します。

ポートIDの割り当て

KM0216/KM0432 の接続先となる各ポートは、個々にポート ID が割り当てられます。これにより接続されたどのポート ID のコンピュータへもアクセスでき、コントロール可能となります。コンピュータに割り当てられるポート ID は、接続方法に応じて、2 つ、あるいは 3 つの部分から構成されています。

単体構成およびデイジーチェーン接続時

単体構成またはデイジーチェーン接続時におけるポート ID は、ステーションナンバーとポートナンバーの 2 つの部分から構成されます。

- ◆ ステーションナンバー - デイジーチェーン接続の構成におけるスイッチの位置を表す 2 桁の番号です。この番号は製品フロントパネルに LED 表示されている番号と同じです。
- ◆ ポートナンバー - コンピュータが接続されている KM0216/KM0432 におけるポートを表します。
- ◆ 前半部分がステーションナンバー、後半部分がポートナンバーです。

注意: ステーションナンバーが 1 桁の場合は、先頭に 0 詰めされて 01~09 のように表示されます。

例えば、ステーション 6 のポート 12 に接続されたコンピュータのポート ID は、**06-12** になります。

カスケード接続時

カスケード接続時におけるポート ID は 3 つの部分から構成されます。

- ◆ KM0216/KM0432 のステーションナンバー
- ◆ KM0216/KM0432 における、カスケード接続用の KVM スイッチが接続しているポートナンバー
- ◆ カスケード接続用の KVM スイッチにおいて、コンピュータが接続しているポートナンバー

例えば、ステーション 8 のポート 15 にカスケードされた KVM スイッチの、ポート 6 に接続されたコンピュータのポート ID は、8-15-6 になります。

ユーザー管理およびセキュリティ

KM0216/KM0432 のユーザー管理では、単体接続、複数段階接続のマスターユニットに 6 名のオペレータプロファイルを設定できます。6 名の内訳は以下のとおりです。

- ◆ スーパーアドミニストレーター 1 名
- ◆ アドミニストレーター 1 名
- ◆ ユーザー 4 名

単体構成の場合は、2 名/4 名のオペレータが 16 台/32 台のコンピュータに同時または個々にアクセスし、コントロールできます。デ이지チェーン接続時は最高 16 名/32 名のオペレータが、アクセス可能となります。(8 台の KM0216 × 2 名のオペレータ/8 台の KM0432 × 4 名のオペレータ) それぞれのスレーブユニットになる KM0216/KM0432 も 6 名のオペレータプロファイルを設定できます。

-
- 注意:**
1. スーパーアドミニストレーターは、スレーブユニットにログインすることにより、この権限から同じセグメントのコントロールが可能になります。このことは通常のアドミニストレーター権限と同様です。
 2. オペレータプロファイルは、実際のオペレータとは違います。KM0216/KM0432 には 2 つ/4 つのコンソールポートがありますが、2 名/4 名のオペレータは同時にスイッチにアクセスできます。オペレータプロファイルとは、権限をそのオペレータに与えるということです。理論上 1 名のオペレータが同じプロファイルで 2 つ/4 つのコンソールポートを使用することも可能です。
-

スーパーアドミニストレーターはユニットに対して全管理権限があり、すべてのセグメントのすべてのオペレータに対する、アクセス権とパスワードの設定ができます。(p.53「SET USER NAME AND PASSWORD」およびp.55「SET ACCESSIBLE PORTS」参照)

アドミニストレーターの権限は、同じセグメントの KM0216/KM0432 にログインしコントロールすることに限定されます。この権限により、同じセグメント内のオペレータに対する、アクセス権とパスワードの設定ができます。

スーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターはユーザーの権限をすべて持っていますが、一般ユーザー(4名)には管理者権限がありません。スーパーアドミニストレーターまたはアドミニストレーターによって、ユーザーはアクセス権が設定され、これによってはじめて指定されたコンピュータに対するコントロールが可能になります。また、ポートごとに、Full Access(フルアクセス)、View Only(参照のみ)、No Access(アクセス不可)の権限を指定できます。

マスターユニットになるKM0216/KM0432 のオペレータ(スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザー)は、スレーブユニットKVMのすべてのポートへのアクセス権を設定することが可能です。このアクセス権は USER BUS AUTHORIZATION機能 (p.56参照)を使ってスーパーアドミニストレーターまたはアドミニストレーターによって設定されます。

スレーブユニット KVM のオペレータは、同じセグメントのコンピュータに限りアクセス可能です。ユーザーが現在ログインしているKM0216/KM0432からカスケード接続しているKVMスイッチに接続されているコンピュータもアクセス可能なコンピュータに含まれます。

第3章 OSD操作

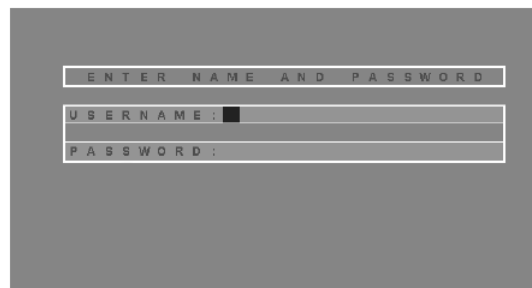
OSD概要

KM0216/KM0432 の OSD(On Screen Display)は、GUI メニューベースでマウスの使用が可能なインターフェースです。この OSD は、スピーディーで便利なコンピュータアクセスコントロールに加え、ユーザー管理(アクセス権限、パスワード等)を含む効率的なシステム管理システムのメニューを搭載しているのが特長です。

それぞれの OSD メニューにはオプションがあり、KVM スイッチの接続先に対する設定とコントロールができます。すべての手順は OSD メインスクリーンから始まります。OSD メインスクリーンを表示するには、**[Scroll Lock]**キーを2度入力します。

注意: **[Scroll Lock]**キーは、デフォルトのOSDホットキーです。設定によってホットキーを**[Ctrl]**キーに変更することもできます。(p.51「OSD HOTKEY」参照)

ログインダイアログボックスがこのように現れます。



お使いの KM0216/KM0432 で有効なユーザーネームとパスワードを入力し、**[Enter]**キーを押してください。

注意: OSD 表示を最初に行った場合は、パスワード機能は何も設定されていませんので、**[Enter]**キーを押してください。OSD メインスクリーンは、スーパーアドミニストレーターモードで表示されます。このモードではすべてのアドミニストレーター、ユーザーの設定をコントロール(将来必要になるパスワード権限も設定可能)できます。

KM0216/KM0432 にログインすると、以下のような画面が表示されます。

```
F1:GOTO F3:SET F5:SKP F7:SCANX
F2:LIST F4:ADM F6:BRC F8:LOUTZ
SUPER ADMINISTRATOR SN:01/02
LIST:ALL
PN QU NAME
01
02
03
04
05
06
07
08
```

-
- 注意:**
1. 上図はスーパーアドミニストレーターでログインした場合の OSD メイン画面です。F4とF6の各メニューはアドミニストレーターに限定された機能ですので、ユーザー権限によるメイン画面ではこれらのメニューが表示されません。
 2. OSD にログインすると、ユーザーが前回アクセスしたメニューが選択された状態でリストビューが表示されます。
 3. 現在ログインしているユーザーがアクセス可能なポート(アドミニストレーターによって設定)のみがこの一覧に表示されます。(詳細はp.55「SET ACCESSIBLE PORTS」参照)
-

単体構成の場合

単体構成の場合、カスケード接続またはダイジーチェーン接続されている KVM スイッチはありませんので、ポート一覧には KM0216/KM0432 のポートのみが表示されます。

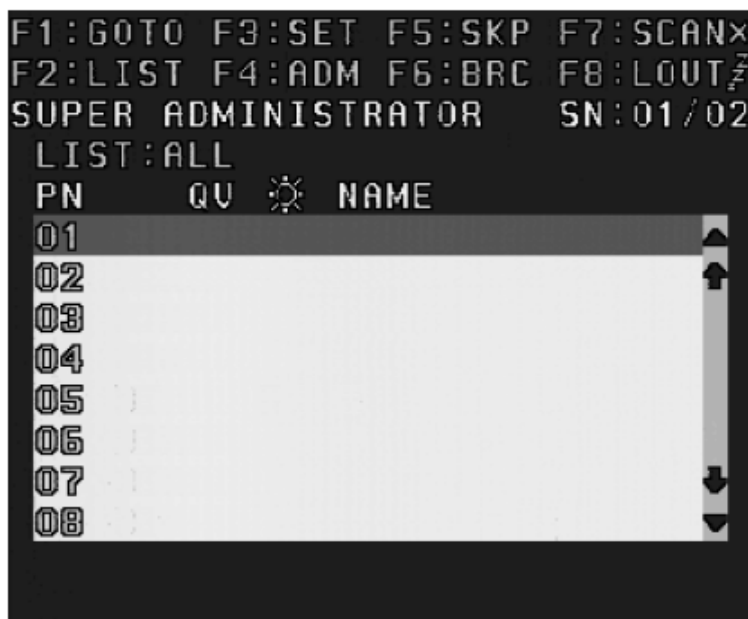
カスケード接続の場合

KM0216/KM0432をカスケード接続している場合、デフォルトでは、KM0216/KM0432にカスケード接続されているKVMスイッチ上にあるポートを含むすべてのポートがポートリストに表示されます。お使いのKM0216/KM0432のシステム構成の中で、KVMスイッチまたはコンピュータが追加されたり、取り外されたり、順序が変わったりした場合には、それらの変更を自動的に検出し、ポートリストにその変更内容を反映させます。

```
F1:GOTO F3:SET F5:SKP F7:SCANX
F2:LIST F4:ADM F6:BRC F8:LOUTZ
SUPER ADMINISTRATOR SN:02/02
LIST:ALL
PN QU NAME
01 ◀ TEST
02
03
04
05-01
05-02
05-03
05-04
```

デジチェーン接続の場合


KM0216/KM0432 をデジチェーン接続している場合、ポートリストには、現在選択されているステーションにおけるポートのみが表示されます。この構成にコンピュータが追加されたり、取り外されたり、順序が変わったりした場合には、それらの変更を自動的に検出し、ポートリストにその変更内容を反映させます。



デジチェーン接続の構成における他のKVMスイッチのポートを一覧表示する場合は、「F1:GOTO」機能 (p.49参照) を使って他のステーションを選択してください。

注意: デジチェーン接続されたKVMスイッチにおけるポートを一覧表示する場合、その構成にカスケード接続されているKVMスイッチが含まれていると、そのカスケード接続されているKVMスイッチにおけるポートも同時に表示されます。詳細はp.34「カスケード接続」の内容をご参照ください。

OSDメイン画面における表示項目

見出し	説明
SN	この欄には、現在表示しているポートに接続されているコンピュータのステーションナンバーを表示します。最初の番号はシステム構成におけるステーション位置、2番目の番号はシステム構成内におけるステーションの総数をそれぞれ表しています。
PN	この欄には、ポートナンバーが表示されます。特定のコンピュータにアクセスするには、ハイライトバーを目的のポートに移動させ、[Enter]キーを押してください。
QV	ポートがクイックビュースキャンの対象(p.55「SET QUICK VIEW PORTS」)として選択されている場合は、この欄に矢印が表示されます。
	この印が表示されているポートは、接続されているコンピュータに電源が入っていてオンラインの状態であることを表します。
NAME	ポート名前 (p.54「EDIT PORT NAMES」参照) を設定した場合、この欄そのポート名前が表示されます。

OSDナビゲーション

OSDメニューの操作は、以下の方法に従って行ってください。

- ◆ メインスクリーンやOSDを閉じる場合は、OSDウィンドウの右上にある×印をクリックするか、[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、メイン画面内のF8をクリックするか、[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト内の項目を上方向または下方向に1行ずつ移動する場合は、上下の印(▲▼)をクリックするか、[↑][↓]キーを押してください。
- ◆ リスト内の項目を上方向または下方向に1画面ずつスクロールする場合は、上下の矢印(↑↓)をクリックするか、[Page Up][Page Down]キーを押してください。
- ◆ ポートにアクセスする場合は、対象となるポートをダブルクリックするか、ハイライトバーをそのポートまで移動させて[Enter]キーを押してください。
- ◆ 各メニューの実行後は自動的に前のメニューに戻ります。

OSD機能

OSD 機能を使うと、OSD の設定と管理を行うことができます。OSD 機能の例として、例えば、ポート間の切替、特定ポートを対象にしたオートスキャン、選択ポートに限定したポートの一覧表示、クイックビューポートの設定、ポート名称の編集、ユーザー管理、システム管理、OSD プロパティの設定などが挙げられます。

OSD 機能にアクセスする場合は、以下の手順で操作してください。

1. メイン画面の上部に表示されているファンクションキーをクリックするか、お使いのキーボードのファンクションキーを押してください。
2. 表示されたサブメニューの中から実行したいものをダブルクリックするか、ハイライトバーを目的のサブメニューまで移動させ、[Enter]キーを押してください。
3. [Esc]キーを押して前のメニューに戻ってください。

KM0216/KM0432 の OSD 操作に関する詳細は、以降のセクションをご参照ください。

F1 GOTO

この機能を使うと、ポート名称の一部、ポート ID、ステーション ID のいずれかを入力することによって、目的のポートまたはダイジーチェーン接続された KVM スイッチに直接切り替えることができます。

- ◆ ポート名称を指定してポートを切り替える場合は、[1]キーを押した後でポート名称を入力し、[Enter]キーを押してください。
- ◆ ポート ID を指定してポートを切り替える場合は、[2]キーを押した後でポート ID を入力し、[Enter]キーを押してください。
- ◆ ステーションIDを指定してポートを切り替える場合は、[3]キーを押した後でステーションIDを入力し、[Enter]キーを押してダイジーチェーン接続のシステム構成における他のステーションに切り替えてください。(p.56「BUS AUTHORIZATION」参照)これはマスターステーション(1 段階目のKM0216/KM0432)における操作権限が与えられたオペレータのみ可能です。

注意: ポートネーム、もしくはポートIDの最初の文字を入力すると、Listメニュー(p.50「F2 LIST」参照)における設定に関わらず、その文字列の条件に合致するポートが画面に一覧表示されます。(p.55「SET ACCESSIBLE PORTS」参照)

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、[Esc]キーを押してください。

F2 LIST

この機能は、OSD メイン画面で表示対象となるポートの範囲を設定することができます。OSD 機能の大半は、メイン画面に表示しているコンピュータのみを対象に機能します。サブメニューの選択項目とその内容は下表のとおりです。

選択項目	内容
ALL	現在の構成におけるポートを全て一覧表示します。詳細については、p.45「単体構成の場合」、p.46「カスケード接続の場合」、p.47「デジタイチェーン接続の場合」の内容をご確認ください。
POWERED ON	接続されているコンピュータの電源が入っているポートのみを一覧表示します。
QUICK VIEW	クイックビューポート(p.55参照)として選択されたポートのみを一覧表示します。
QUICK VIEW + POWERED ON	クイックビューポート(p.55参照)として選択され、かつ、接続されているコンピュータに電源が入っているポートのみを一覧表示します。

選択したいポートにハイライトバーを移動して、[Enter]キーを押してください。切り替わると、現在選択しているポートIDの前にアイコンが表示されます。

F3 SET

この機能は各ユーザーの作業環境のプロパティを設定します。各ユーザーのプロファイルはOSD内に保存され、ユーザーのログイン時にその内容が反映されます。

設定を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 画面内の「F3 SET」の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをこの項目へ移動させ[Enter]キーを押してください。
2. 次に表示されたサブメニューの変更したい項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをその項目に移動して[Enter]キーを押します。アイコンは現在選択されている項目を表示しています。

注意: すべての設定変更は現在のセッションがアクティブである間は一時的なメモリに格納され、OSDからログアウト(p.60参照)した際に初めて保存されます。設定変更を行った後ログアウトせずにKM0216/KM0432 を再起動した場合、その変更内容は破棄されますのでご注意ください。

各設定項目の詳細は以下のとおりです。

設定	機能
OSD HOTKEY	OSDを表示するホットキー操作を選択します。[Scroll Lock] キー2度押しまたは[Ctrl]キー2度押しのいずれかが設定可能です。[Ctrl]キーの操作は、場合によっては動作中のコンピュータのプログラムと競合するため、デフォルトでは[Scroll Lock]キー2度押しに設定されています。
PORT ID DISPLAY POSITION	画面内におけるポート ID の表示位置を設定します。デフォルトでは画面の右上に設定されていますが、この位置は自由に変更することが可能です。 マウス、矢印キー、または[Num Lock]をオフにした状態で[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、テンキーの[5]のいずれかのキーを用いてポート ID の位置を調節し、位置が定まったらマウスをダブルクリックするか、[Enter]キーを押して、位置を確定してください。位置が確定すると、F3 SET のサブメニュー画面に戻ります。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
PORT ID DISPLAY DURATION	ポートの切替後、画面上にポート ID を表示する時間を設定します。決定方法は、時間(1~255 秒)を選択する User Defined 、そして、ポート ID を常に表示する Always On があります。 User Defined を選択した場合は、秒数を入力し、その後[Enter]キーを押してください。初期設定は 3 秒間です。0(ゼロ)秒設定に設定すると、この機能を無効にします。
PORT ID DISPLAY MODE	ポート ID の表示方法を設定します。選択できる内容は、ポートナンバーのみ (PORT NUMBER)、ポートネームのみ(PORT NAME)、ポートナンバー+ポートネーム(PORT NUMBER + PORT NAME)です。デフォルトではポートナンバー+ポートネーム(PORT NUMBER + PORT NAME)が設定されています。
SCAN DURATION	オートスキャン (p.59参照) の対象となるポートの表示時間を設定します。1~255 秒までの秒数を入力し、その後、[Enter]キーを押してください。初期設定は 5 秒間です。また、この項目に 0 を設定するとスキャン機能を無効にします。
SCAN/SKIP MODE	<p>スキップモード (p.57参照) とオートスキャンモード (p.59参照) で、アクセス対象となるコンピュータを選択します。選択方法は以下のとおりです。</p> <p>ALL - アクセス可能に設定されているすべてのポート (p.55参照)</p> <p>POWERED ON - アクセス可能で、かつ、電源が入っているポートのみ</p> <p>QUICK VIEW - アクセス可能で、かつ、クイックビューポート (p.55参照) として設定されたポートのみ</p> <p>QUICK VIEW + POWERED ON - アクセス可能で、クイックビューポートとして設定され、かつ、電源が入っているポートのみ</p> <p>デフォルトでは ALL に設定されています。</p> <p>注意:クイックビューのメニューはアドミニストレーターの画面にのみ表示されます。(p.55「SET QUICK VIEW PORTS」参照)</p>
SCREEN BLANKER	この項目で設定された時間、コンソールからの入力がない場合、画面は空白になります。1~30 分の間で時間を設定し、[Enter]キーを押してください。また、この項目に 0 を設定するとこの機能を無効にします。デフォルトでは 0(無効)に設定されています。
HOTKEY COMMAND MODE	ホットキー操作が動作中のコンピュータプログラムと競合する場合に対応できるよう、この項目でホットキーコマンド機能を有効/無効に設定することができます。デフォルトでは有効に設定されています。

F4 ADM

この機能はスーパーアドミニストレーターおよびアドミニストレーターのみが利用できる機能です。この機能により、管理者は OSD 全体の設定管理が可能になります。設定を変更するには、この項目をダブルクリックするか、上下の矢印キーを使ってハイライトバーを移動させ、[Enter]キーを押してください。

アイテムを選択すると、そのアイテムに関連するサブメニューが表示されます。選択したいものをダブルクリックするか、ハイライトバーをそこまで移動させ、[Enter]キーを押してください。選択されたアイテムの前にはアイコンが表示されます。設定方法は下記の表の通りです。

注意: すべての設定変更は現在のセッションがアクティブである間は一時的なメモリに格納され、OSDからログアウト(p.60参照)した際に初めて保存されます。設定変更を行った後ログアウトせずにKM0216/KM0432 を再起動した場合、その変更内容は破棄されますのでご注意ください。

設定	機能
SET USERNAME AND PASSWORD	この機能で各ユーザーのユーザーネームおよびパスワードを設定します。 1. スーパーアドミニストレーター1名、アドミニストレーター1名、およびユーザー4名のパスワードが設定できます。 2. 「SUPER ADMINISTRATOR」、「ADMINISTRATOR」、「USER」のうち1つを選択すると、ユーザーネームとパスワードが入力できる画面が表示されます。ユーザーネームおよびパスワードは半角英数字(A~Z, 0~9)を使って、最大12文字で入力してください。 3. 各ユーザーのユーザーネームとパスワードを入力しパスワードを確定したら、[Enter]キーを押してください。 4. 編集時のユーザーネームやパスワードを修正もしくは消去する場合は、バックスペースキーを使用してください。
SET LOGOUT TIMEOUT	この項目で設定された時間、コンソールからの入力がない場合、ユーザーは自動的にログアウトします。コンソールを再び使用するにはもう一度ログインが必要です。これはユーザーがコンピュータでの操作を終えたにもかかわらず、ログアウトするのを忘れた場合でも、他のユーザーがそのコンピュータにアクセスできるようにするための機能です。タイムアウトの値を設定するには、1~180分までの数値を入力し、[Enter]を押してください。0分を設定すると、この機能は無効になります。デフォルトでは0分(無効)に設定されています。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
EDIT PORT NAMES	<p>特定のポートにどのコンピュータが接続されているか覚えやすくするために、各ポートに名前をつけることができます。この機能により、アドミニストレーターはポートネームの設定、編集、削除がそれぞれ可能です。ポートネームを編集は以下の手順で操作してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 編集したいポートをクリックするか、ナビゲーションキーを使ってハイライトバーをそのポートに移動させ、[Enter]キーを押してください。 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正、または、削除してください。ポートネームは最大 12 文字で入力してください。また、以下の文字が使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 半角英字: a~z、A~Z ◆ 半角数字: 1~9 ◆ 半角記号: + - / : . およびスペース 大小文字は関係ありません。OSD では、入力内容にかかわらず、ポートネームはすべて大文字で表示されます。 ポートネームの編集が終了したら、[Enter]キーを押して、変更内容を反映させてください。また、変更を中止する場合は、[Esc]キーを押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES	この機能を使うと、ポートネーム以外の項目で、既に変更された設定内容をすべて工場出荷時におけるデフォルト設定 (p.83参照) に戻します。
CLEAR THE NAME LIST	この機能を使うと、ポートネームをすべて消去します。
ACTIVATE BEEPER	ビープ音を有効(Y)または無効(N)にします。ビープ音を有効にすると、ポート切替時、オートスキャン機能 (p.59参照) 有効時、また、OSDメニューにおける無効なキーの入力時にそれぞれビープ音が鳴ります。デフォルトではY(有効)に設定されています。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET QUICK VIEW PORTS	<p>この機能を使うと、アドミニストレーターがクイックビューポートを設定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ クイックビューポートの設定/設定解除を行うには、対象となるポートをダブルクリックするか、ナビゲーションキーでハイライトバーを移動させた後、スペースキーを押してください。 ◆ ポートがクイックビューポートとして選択されると、メイン画面のリストの「QV」の列に矢印が表示されます。クイックビューポートの設定が解除されると、この矢印は非表示になります。 ◆ LIST画面 (p.50参照) でクイックビューオプションが選択されている場合は、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ◆ クイックビューオプションが選択され、オートスキャン機能 (p.52参照) が実行されると、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。 <p>初期設定ではどのポートも選択されていません。</p>
SET ACCESSIBLE PORTS	<p>この機能を使うと、アドミニストレーターはポート単位でユーザーの操作権限を設定することができます。各ユーザーに対し、設定対象となるポートを選択し、スペースキーを押して、F(フルアクセス)、V(参照のみ) または、ブランク(アクセス不可)を切り替えて設定することができます。アクセス権限の設定が終わったら、[Enter]キーを押してください。デフォルトでは、全てのユーザーに対し全てのポートでF(フルアクセス)に設定されています。</p> <p>注意:ブランク設定はアクセス権が与えられていないことを意味します。そのポートはメイン画面のユーザーのリストには表示されません。</p>
SET ACCESS TIMEOUT	<p>特定ポートに対してコンソールから何も入力がないまま、この項目で設定された一定時間が経過すると、自動的にそのポートは解放され他のコンソールからアクセス可能になります。</p> <p>タイムアウトの時間設定は、0～255 秒の間の値を入力し、[Enter]キーを押します。</p> <p>0を入力するとこの機能は無効になります。デフォルトでは5秒に設定されています。</p>

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET KEYBOARD LANGUAGE	<p>アドミニストレーターはこの項目を使って各ポートに対してキーボード言語レイアウトを設定できます。キーボードの言語を設定する場合は、対象となるポートを選択し、スペースキーを押して設定内容を切り替えてください。繰り返し押し出すことによって、英語(アメリカ)、日本語、フランス語の順に切り替わります。デフォルトでは英語(アメリカ)に設定されています。</p>
SET OPERATING PLATFORM	<p>アドミニストレーターはこの項目を使って各ポートに接続されているコンピュータの OS 設定ができます。OS を設定する場合は、対象となるポートを選択し、スペースキーを押して設定内容を切り替えてください。繰り返し押し出すことによって、Windows(PC・DOS/V 互換機)、Mac、Sun の順に切り替わります。デフォルトでは、Windows(PC・DOS/V 互換機)に設定されています。</p>
BUS AUTHORIZATION	<p>ユーザーが現在ログイン中のステーション群以外のステーションに対してアクセスを可能にするかを、スーパーアドミニストレーターはこの項目を使って設定することができます。</p> <p>設定対象となるユーザーを選択し、スペースキーを押して設定内容を切り替えてください。キーを繰り返し押し出すことによって、F(フルアクセス)、V(参照のみ)、ブランク(アクセス不可)の順に切り替えます。他のユーザーに対しても同様の方法で設定し、最後に[Enter]キーを押してください。</p> <p>デフォルトでは全ユーザーでアクセス不可に設定されています。どのオペレーターも他のステーション、および、その先に接続されているコンピュータに対してアクセス権はありません。</p>
FIRMWARE UPGRADE	<p>KM0216/KM0432 のファームウェアをアップグレードするためには、最初に FIRMWARE UPGRADE MODE(第 6 章参照)を実行しなければなりません。マスターステーションのスーパーアドミニストレーターだけが、この機能を利用することができます。</p>

F5 SKP

この機能を使うと、前後のポートへの切替を簡単に行うことができます。

- ◆ スキップモードで選択できるコンピュータは、「F3 SET」機能における「SCAN/SKIP MODE」(p.52参照)の項目から設定します。
- ◆ スキップモード時に、[←]を押すと前のコンピュータへ切り替わり、[→]を押すと次のコンピュータへ切り替わります。また、[↑]を押すと前のステーションの最後のコンピュータへ切り替わり、[↓]を押すと次のステーションの最初のコンピュータへ切り替わります。

注意: スキップは、スキャン/スキップモード(p.52参照)でアクセス可能なコンピュータの中で、前方または後方に切替を行います。

- ◆ ポートがスキャン/スキップモードで切り替えられると、ポート ID の前に三角形の印が表示されます。
- ◆ スキップモードの実行中は、通常のコソール機能はご利用いただけません。コソールを使用したい場合はスキップモードを終了させる必要があります。
- ◆ スキップモードを終了するには、スペースキー、もしくは[Esc]キーを押してください。

F6 BRC

この機能は、スーパーアドミニストレーターとアドミニストレーターのみ利用権限が与えられています。画面内の「F6」の部分をクリックするか、キーボードの[F6]キーを押すとブロードキャストモード(BRC)が実行されます。ブロードキャストモードでは、コンソールから入力されたコマンドが接続されているすべての利用可能なコンピュータに対してブロードキャストされます。

この機能は、例えば、システム全体に対して、ソフトウェアのインストールやアップグレード、シャットダウンなどの操作を行う際に役立ちます。

- ◆ BRC モードを実行すると、現在コンソールからアクセスされているポート ID の前にスピーカーのマークが表示されます。
- ◆ BRC モードの実行中は、通常のマウスの機能はご利用いただけません。マウスを使用する場合は BRC モードを終了してください。
- ◆ BRC モードを終了するには、OSD ホットキーを使って OSD を実行し、「F6」の項目をクリックするか、[F6]キーを押してください。

F7 SCAN

この機能を使うと、手動でポート切替操作を行わなくても、一定の時間間隔で自動的にアクセス可能なコンピュータに切り替えて監視を行うことが可能です。

- ◆ オートスキャンの対象となるコンピュータは、「F3 SET」機能における「SCAN/SKIP MODE」(p.52参照)の項目から設定します。
- ◆ 各ポートの表示時間は、「F3 SET」機能における「SCAN DURATION」(p.52参照)の項目から設定します。スキャンを特定の場所で停止したい場合は、スペースキーまたは[Esc]キーを押して、オートスキャンモードを終了してください。
- ◆ コンピュータが接続されていないポート、また、電源が入っていないコンピュータが接続されているポートでスキャンが停止した場合、モニタには何も表示されず、マウスやキーボードからの入力に対しても何も反応しません。このような場合は、「SCAN DURATION」の項目で設定した切替表示時間が経過すると次のポートに自動的に切り替わりますので、しばらくお待ちください。
- ◆ コンピュータはオートスキャンモードでアクセスされると、ポート ID の前に S マークが表示されます。
- ◆ オートスキャンの実行中は、通常のコソール機能はご利用いただけません。コソールを使用したい場合はオートスキャンモードを終了させる必要があります。
- ◆ オートスキャンの実行中に[P]キーを押すか、マウスで左クリックすると、特定のポートで一時停止できます。詳細についてはp.64「オートスキャンの起動」をご参照ください。
- ◆ オートスキャンモードを終了する場合は、スペースキーまたは[Esc]キーを押してください。

F8 LOUT

この機能を使うと、OSD メニューからログアウトし、コンソール画面はブランクになります。[Esc] キーを押した場合もメイン画面の OSD メニューは終了しますが、このキーで OSD を終了させた場合は OSD ホットキーを押せば OSD メニューをすぐに呼び出せるのに対し、この機能を使って OSD からログアウトすると、再び OSD を起動するには KM0216/KM0432 へのログインから操作をやりなおさなければなりません。

-
- 注意:**
1. OSD からログアウトし再ログインすると、画面はブランクになり OSD のメイン画面のみが表示されます。操作を続ける場合は、お使いのシステムで有効なユーザー名とパスワードを入力してログインしてください。
 2. OSD からログアウト後に再ログインし、OSD メニューからポートを選択せずに [Esc] キーを押して OSD 画面を閉じると、画面上に Null Port に関するメッセージが表示されます。この場合、OSD ホットキーを使うと OSD メイン画面を再び呼び出すことができます。
-

第4章 ホットキー操作

ホットキーによるポート操作

ホットキーを使うと、キーボードを使って特定のコンピュータに切り替えることが可能です。

注意: KM0216/KM0432 を単体でお使いの場合、またはカスケード接続のみ、デイジーチェーン接続のみの機器構成の場合はホットキーのご利用が便利ですが、カスケード接続とデイジーチェーン接続が混在した機器構成の場合は、OSD をお使いになる方が、操作がスムーズに行えます。

KM0216/KM0432 のホットキーによるポート操作には、以下のような特長があります。

- ◆ アクティブポートの選択
- ◆ オートスキャン
- ◆ スキップモードの切替

ホットキーモードの起動

ホットキーで操作を行う前には、必ずホットキーモードを起動します。このホットキーモードは以下の手順で起動します。

1. [Num Lock]キーを長押ししてください。
2. [*]キー、または[-]キーを押して、0.5 秒以内にキーから指を離してください。
3. [Num Lock]キーから指を離してください。

本マニュアルでは、このキー操作は以下のように表記します。

[Num Lock] + [*] または [Num Lock] + [-]

ホットキーモードが有効になっている場合、以下の動作が見られます。

- ◆ Caps Lock、Scroll Lock の各 LED ランプが交互に点滅します。ホットキーモードを終了すると、これらの LED ランプは点滅なくなり、通常の状態に戻ります。
- ◆ 画面下部に、青色の背景に白い文字で「HOTKEY:」と書かれたコマンドプロンプトが表示されます。ホットキーモードの実行中に入力された文字列はここに表示されます。
- ◆ 通常のキーボード、マウスの機能はサスペンドされ、ホットキーで予約されたキー入力およびマウスのクリック(以下のセクションに記載)のみ有効になります。
- ◆ [Esc]キーまたはスペースキーを押すと、ホットキーモードを終了します。

アクティブポートの選択

各ポートにはポートID (p.41「ポートIDの割り当て」参照) が付番されます。コンピュータが接続しているポートのポートIDをホットキーで指定することによって、キーボード入力で直接そのコンピュータに切り替えることができます。切替手順は以下のとおりです。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.61参照)
2. ポート ID を入力してください。
入力したポート ID はコマンドラインに表示されます。入力内容を変更したい場合は、バックスペースキーを使って文字列を消去し、正しい内容を入力してください。
3. [Enter]キーを押してください。
[Enter]キーを押すと、指定したポートに表示を切り替え、ホットキーモードは自動的に終了します。

オートスキャン

オートスキャン機能は、現在操作しているユーザーがアクセス可能なポートを一定の時間間隔で自動的に切り替える機能です。(アクセス可能なポートについてはp.52参照)この機能は、製品に接続されているコンピュータの動作を自動的に切り替えて監視するのに便利です。

スキャンインターバルの設定

オートスキャンで各ポートを表示する時間は、「F3 SET」機能における「SCAN DURATION」(p.52参照)の項目で設定します。この表示時間は、必要であればオートスキャンモードを実行する前に以下のホットキーで変更することが可能です。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.61参照)
2. [T]キーを押した後、ポート表示時間の秒数を1～255の範囲で入力してください。
キーを入力すると、「T」の文字に続いて入力された秒数がコマンドラインに表示されます。
入力内容を変更したい場合は、バックスペースキーを使って文字列を消去し、正しい内容を入力してください。
3. [Enter]キーを押してください。
[Enter]キーを押すと、ホットキーモードは自動的に終了し、オートスキャンを開始する準備が整います。

オートスキャンの起動

オートスキャンを開始する場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.61参照)

2. [A]キーを押してください。

[A]キーを押すと、ホットキーモードは自動的に終了し、オートスキャンが開始します。

- ◆ オートスキャンモードの実行中に、[P]キーを押すか、マウスで左クリックすると、特定のポートでスキャンを一時停止することができます。オートスキャンの一時停止中には、コマンドラインに「Auto Scan : Paused.」というメッセージが表示されます。

スキャンを停止し、特定のポートを表示させるには、スキャンの一時停止とスキャンの終了の2種類の方法がありますが、スキャンをしばらく停止させた後再開する必要がある場合は、一時停止機能をご利用になるほうが便利です。

その理由は、一時停止した場合は、前回停止したポートからスキャンを再開させるのに対し、オートスキャンを終了させてからオートスキャンを再び起動した場合は、スキャンを最初のポートから再開させるからです。

一時停止したスキャンを再開させる場合は、任意のキーを押すか、マウスで左クリックしてください。スキャンは前回停止したポートから再開します。

- ◆ オートスキャンモードの実行中は、通常のキーボード、マウスの機能がサスペンドされ、オートスキャンの機能として予約されたキー入力およびマウスのクリックのみ有効になります。コンソールを通常の方法で使用したい場合は、オートスキャンモードを終了する必要があります。

3. オートスキャンモードを終了する場合は、[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。オートスキャンモードを終了すると、オートスキャンは停止します。

スキップモード

このモードでは、コンピュータを手動で切り替えます。オートスキャン機能が一定の時間間隔で自動的にポートを切り替えるのに対し、スキップモードでは任意の時間間隔でポートを切り替えることができます。スキップモードを起動する場合は、以下の手順でホットキーを入力してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.61参照)
2. スキップしたい方向に対応したカーソルキーを押してください。
 - ◆ 各カーソルキーと移動方向は以下のとおりです。カーソルキーを押すと、ホットキーモードは自動的に終了し、スキップモードを開始します。

← 現在のポートから前のアクセス可能なポートへスキップします。(アクセス可能なポートについてはp.52「SCAN/SKIP MODE」参照)

→ 現在のポートから次のアクセス可能なポートへスキップします。

↑ 現在のポートから前のステーション内で最後のアクセス可能なポートへスキップします。

↓ 現在のポートから次のステーション内で最初のアクセス可能なポートへスキップします。

- ◆ スキップモードの実行中は、カーソルキーを押すだけでその方向に移動することができますので、スキップするたびに[Num Lock] + [*]を入力し、ホットキーモードを起動する必要はありません。
- ◆ スキップモードの実行中は、通常のキーボード、マウスの機能がサスペンドされ、スキップモードの機能として予約されたキー入力のみ有効になります。コンソールを通常の方法で使用したい場合は、スキップモードを終了する必要があります。

3. スキップモードを終了する場合は、[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。

ホットキーによるビープ音の切替

ビープ音(p.54「ACTIVATE BEEPER」参照)のON/OFFはホットキーを使って切り替えることができます。ビープ音のON/OFFを切り替える場合は、以下のホットキーを入力してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.61参照)
2. [B]キーを押してください。

[B]キーを押すと、ビープ音を ON または OFF にし、コマンドラインに「Beeper On」(または「Beeper Off」)のメッセージを 1 秒間表示した後、ホットキーモードを終了します。









ホットキー一覧表

[Num Lock] + [*] または [Num Lock] + [-]	[ポート ID] [Enter]	スイッチは、指定のポート ID のコンピュータに切り替えます。
	[T] [n] [Enter]	オートスキャンのインターバルを設定します。[n]は秒数を表し、1~255 秒の間で設定します。
	[A]	オートスキャンモードを実行します。 オートスキャンモードの実行中に、[P]キーを押すか左クリックすると、スキャンを一時停止します。 オートスキャンの一時停止中に、任意のキーを押すか、マウスの左クリックをすると、オートスキャンを再開します。
	[←]	スキップモードを起動し、現在のポートから一つ前のアクセス可能なポートへスキップします。
	[→]	スキップモードを起動し、現在のポートから一つ後ろのアクセス可能なポートへスキップします。
	[↑]	スキップモードを起動し、現在のポートの前のステーション内で最後にアクセス可能なポートへスキップします。
	[↓]	スキップモードを起動し、現在のポートの後ろのステーション内で最初にアクセス可能なポートへスキップします。
	[B]	ビープ音のオン/オフを交互に設定します。

第5章 キーボードエミュレーション

Macキーボード



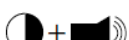




キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換キーボード(101/104 キー)から Mac システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Back Space]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

Sunキーボード

キーマッピングのエミュレーション機能を利用すると、[Ctrl]キーと他のキーを組み合わせることで、PC 互換キーボード (101/104 キー) から Sun システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

-
- 注意:**
1. 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー ([Ctrl] キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。
 2. OKモードをご利用になる場合は Stop + A のキー操作が必要です。詳細については p.89「トラブルシューティング」をご参照ください。
-

第6章

ファームウェアアップグレードユーティリティ

はじめに

目的

Windows 対応のファームウェアアップグレードユーティリティ(FWUpgrade.exe)を使用することで、KVM スイッチのファームウェアを自動的にかつ簡単にアップグレードできます。

ユーティリティは、それぞれのデバイス別のファームウェアアップグレードパッケージとして提供されます。

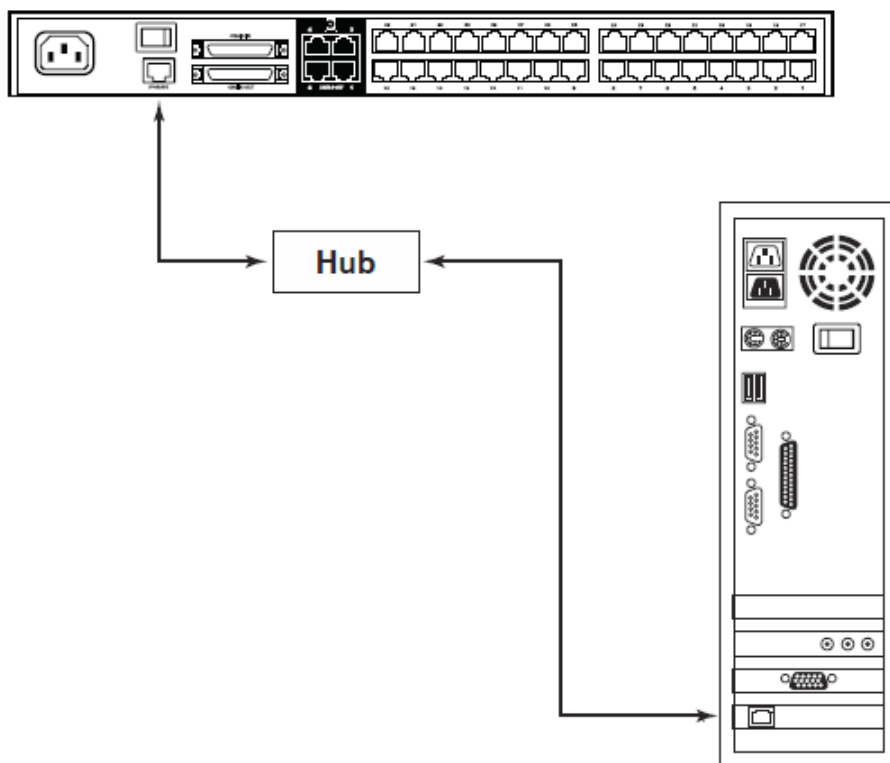
最新のファームウェアがリリースされると弊社 Web サイトに公開されます。定期的に Web サポートサイトをご覧頂きますようお願い致します。

作業をはじめる前に

以下の手順に従ってファームウェアアップグレードの準備を行ってください。

1. 製品に接続されていないコンピュータから弊社 Web サイトにアクセスし、一覧からファームウェアのアップグレードを行う製品の型番をリストから選択してください。
2. インストールしたいファームウェアアップグレードパッケージのバージョン(通常は最新版)を選択し、お使いのコンピュータにダウンロードしてください。
3. KM0216/KM0432 のファームウェアアップグレードポートと、手順 1 で使用したコンピュータが接続しているハブとをカテゴリ 5 ケーブルで接続してください。

注意: デイジーチェーン接続の場合、ケーブルを 1 段階目のステーションに接続してください。チェーン接続された他のステーションは、デイジーチェーンケーブルを通してすべて同時にアップグレードされます。



4. ステーション以外の、すべてのコンピュータをシャットダウンしてください。
5. KVMスイッチのコンソールからOSD (p.44参照) を起動し、「F4 ADM」を選択してください。
6. スクロールダウンして「FIRMWARE UPGRADE」の項目を表示させ、**[Enter]**キーを押し、**[Y]**キーを押して、ファームウェアアップグレードモードを実行してください。

アップグレードの実行

アップグレードの開始

ファームウェアのアップグレード作業は以下の手順で行ってください。

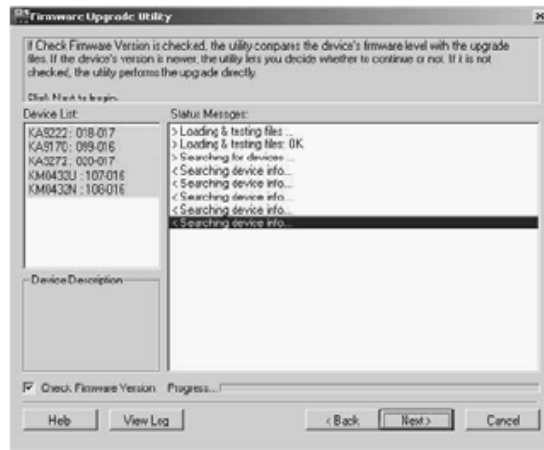
1. ファームウェアアップグレードパッケージファイルのアイコンをダブルクリックするか、そのファイルのフルパスをコマンドラインから実行して、ファームウェアアップグレードユーティリティを起動してください。

ファームウェアアップグレードユーティリティが起動すると、以下のような画面が表示されます。



2. ダイアログに表示されている使用許諾契約書の内容を確認し、「I Agree」(同意する)のラジオボタンを押して、同意してください。

3. 「Next」ボタンをクリックして操作を進めてください。以下のようなファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。

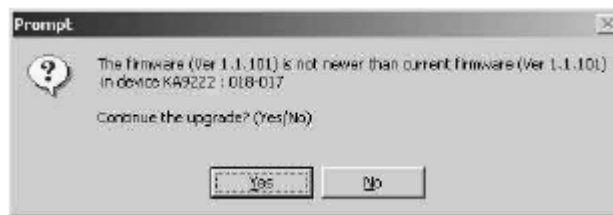


ユーティリティはお使いのシステム構成を自動検出し、そのパッケージでアップグレード可能なデバイスを「Device List」パネルに一覧表示します。

-
- 注意:**
1. リストには 1 機種につき 1 行しか表示されませんが、複数台セットアップされている場合は、それらすべてに対してアップグレードを行います。
 2. 画面内における KM0432U および KM0432N は、デジチェーン接続されている KM0432 デバイスの中で、アップグレード可能な異なる IC が 2 つあることを表します。
 3. デバイス名の背景が青になっているものは、アップグレードの準備が完了していることを表しています。
-

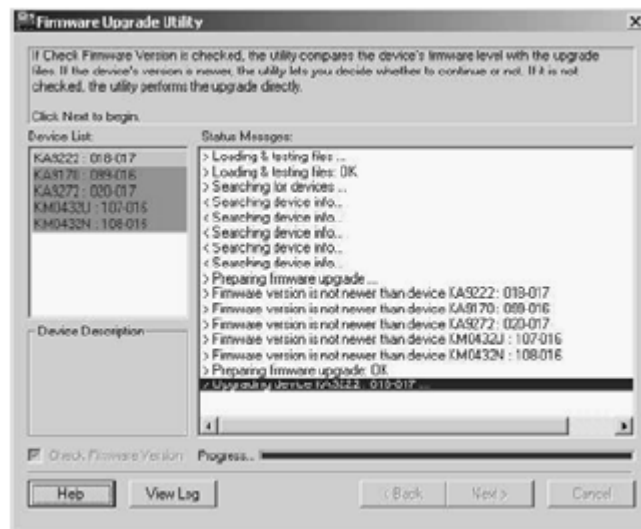
4. アップグレード対象となるデバイスがすべて「Device List」パネルに表示されたら、「Next」ボタンをクリックしてアップグレードを開始してください。

「Check Firmware Upgrade」の項目にチェックが入っていると、ユーティリティは、そのデバイスに既にインストールされているファームウェアとアップグレードファイルのバージョンを比較します。デバイスにインストールされているファームウェアのほうが新しい場合、以下のようなダイアログが表示され、アップグレードを継続するかどうかの選択を求められます。

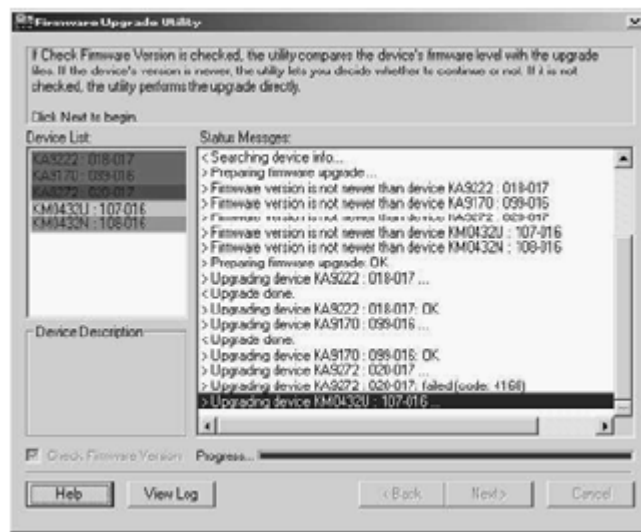


「Check Firmware Upgrade」の項目にチェックが入っていないと、ユーティリティはファイルのバージョンの比較を行わずにアップグレードを行います。

- ◆ デバイスがアップグレードされているとき、デバイス名の背景は緑色に点滅し、アップグレードの処理中であることを表します。
- ◆ アップグレード処理の進捗状況は、「Status Message」パネルでのメッセージ表示と、ダイアログ下部のプログレスバーで確認することができます。



- ◆ デバイスのアップグレードが完了すると、処理結果が「Status Message」パネルに表示されます。
- ◆ デバイスのアップグレードが成功すると、そのデバイスの背景がピンク色に、また、アップグレードが失敗するとデバイスの背景が赤色にそれぞれ変わります。これらのメッセージで処理結果を確認してください。



5. すべてのデバイスのアップグレードが完了したら、「Finish」ボタンをクリックしてファームウェアアップグレードユーティリティを終了してください。

アップグレード失敗

デバイスがファームウェアアップグレードに失敗した場合は、以下の手順でアップグレードをやり直してください。

1. 「Finish」ボタンをクリックして、ファームウェアアップグレードユーティリティを終了してください。
2. ファームウェアアップグレードを最初からやり直してください。(p.73参照)
3. デバイスリストへの表示が完了したら、アップグレードに失敗したデバイスを、「Device List」パネルから選択してください。(p.74参照)
4. 「Next」ボタンをクリックして、アップグレードを開始してください。

ファームウェアアップグレードのリカバリー

停電等の理由でファームウェアのアップグレード処理が正常終了しなかった場合、障害発生時にアップグレード処理を行っていたデバイスが使用できなくなったり、通常のファームウェアアップグレードの処理を受け付けなくなったりする場合があります。

このような場合には、以下の手順でリカバリー作業を行ってください。

1. ユニットのファームウェアアップグレードリカバリースイッチ (p.19参照) を、「RECOVER」の位置にスライドしてください。
2. ウォームリセットを実行してください。(p.19参照) ウォームリセットを実行すると、スイッチはアップグレードすることができます。
3. リカバリースイッチを「NORMAL」の位置に戻してください。
4. ファームウェアアップグレードの処理を最初からやり直してください。(p.73参照)

付録

スイッチ台数と接続可能コンピュータ台数の対応表

以下の表は、使用する KVM スイッチの台数と、そのときに接続可能なコンピュータの台数を表します。

KM0216 をデイジーチェーン接続した場合

KM0216	コンピュータ台数
1	1～16
2	17～32
3	33～48
4	49～64
5	65～80
6	81～96
7	97～112
8	113～128

KM0216 を 8 ポートKVMスイッチにカスケード接続した場合

KVM	コンピュータ台数	KVM	コンピュータ台数
1	16～23	9	73～79
2	23～30	10	79～86
3	30～37	11	86～93
4	37～44	12	93～100
5	44～51	13	100～107
6	51～58	14	107～114
7	58～65	15	114～121
8	65～72	16	121～128

KM0432 をデジチェーン接続した場合

KM0432	コンピュータ台数
1	1～32
2	33～64
3	65～96
4	97～128
5	129～160
6	161～192
7	193～224
8	225～256

KM0432 を 8 ポートKVMスイッチにカスケード接続した場合

KVM	コンピュータ台数	KVM	コンピュータ台数
1	32～39	17	144～151
2	39～46	18	151～158
3	46～53	19	158～165
4	53～60	20	165～172
5	60～67	21	172～179
6	67～74	22	179～186
7	74～81	23	186～193
8	81～88	24	193～200
9	88～95	25	200～207
10	95～102	26	207～214
11	102～109	27	214～221
12	109～116	28	221～228
13	116～123	29	228～235
14	123～130	30	235～242
15	130～137	31	242～249
16	137～144	32	249～256

製品仕様

機能		KM0216	KM0432
コンピュータ接続数	ダイレクト接続	16	32
	デイジーチェーン接続時	128 台	256 台
	デイジーチェーン /カスケード接続時	1,024 台	2,048 台
コンソール接続数		2	4
コンピュータ側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル	
	マウス		
コンソール側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB	
	マウス		
ポート選択方法		ホットキー、OSD	
コンピュータ側コネクタ	キーボード	RJ-45×16	RJ-45×32
	マウス		
	モニタ		
コンソール側コネクタ	キーボード	RJ-45×2	RJ-45×4
	マウス		
	モニタ		
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1	
	電源	ロッカースイッチ×1	
	ファームウェア アップグレード	スライドスイッチ×1	
デイジーチェーンポート	IN	DB-25 ピンメス×1	
	OUT	DB-25 ピンオス×1	
ファームウェアアップグレードポート		RJ-45×1	
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×1	
LED	オンライン	グリーン×16	グリーン×32
	ポート選択(ポート)	レッド×16	レッド×32
	ポート選択 (ステーション)	7 セグメントデジタル表示 オレンジ×2	
	電源	ブルー×1	

(表は次のページに続きます)

機能		KM0216	KM0432
キーボード・マウスエミュレーション		PS/2、USB(Windows、Sun、Mac)、シリアル	
スキャンインターバル		1～255 秒(ユーザー設定) /5 秒(デフォルト)	
電源仕様		AC100V～240V 50Hz/60Hz	
消費電力		13.9W	
VGA 解像度		1,024×768@60Hz DDC2B 準拠 150m 延長時	
動作環境	動作温度	0～50℃	
	保管温度	-20～60℃	
	湿度	0～80%RH、結露なきこと	
ケース材料		メタル	
重量		4.2kg	4.6kg
サイズ(W×D×H)		433×284×44 mm	
同梱品		電源ケーブル×1 ユーザーマニュアル×1 クイックスタートガイド×1 ラックマウントキット×1 フットパッド(4pcs)×1 デジチェーンケーブル×1 接地線×1	
コンピュータ側対応モジュール		《PS/2 用モジュール》 KA9120 《USB 用モジュール》 KA9170 《シリアルモジュール》 KA9140	

(表は次のページに続きます)

機能	KM0216	KM0432
デジチェーン対応製品	KM0216 KM0432 KM0832*	
デジチェーン用ケーブル	2L-1700KM(0.6m) 2L-1701KM(1.2m) 2L-1704KM(4m)	
カスケード対応製品	CS-9138 CS-88A	
カスケード用モジュール	KA9120	
旧 SUN システム専用モジュール (13W3+ミニ DIN8 ピン)	KA9130	
新 SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA9170	
MAC 用モジュール	KA9170	
コンソール側対応モジュール	《PS/2 用モジュール》 KA9222A 《USB 用モジュール》 KA9272A	

*本製品とKM0832をデジチェーン接続する場合は、KM0832を1段階目のステーションとしてセットアップしてください。

工場出荷時における初期設定一覧

KM0216/KM0432 の工場出荷時における初期設定の内容は以下のとおりです。

設定	初期値
OSDホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポートID表示位置	左上部
ポートID表示時間	3 秒
ポートID表示モード	ポートナンバーおよびポートネーム
ポート表示時間	5 秒
スキャン/スキップモード	すべて
スクリーンブランカー機能	0(無効)
ホットキーコマンドモード	有効
ログアウトタイムアウト機能	0(無効)
ビープ音	Y(有効)
クイックビューポート	設定ポートなし
アクセス可能ポート	全ユーザーが全ポートに対して F(フルアクセス)
タイムアウト待機時間	5 秒
キーボード言語	英語(アメリカ)
ポートOS設定	Windows(PC 互換)
バス認証	ブランク(全ユーザーがアクセス権限なし)

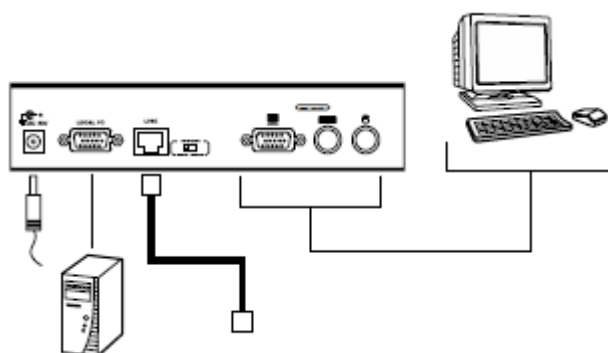
対応KVMスイッチ

KM0216/KM0432 は以下の KVM スイッチとカスケード接続してお使いいただけます。

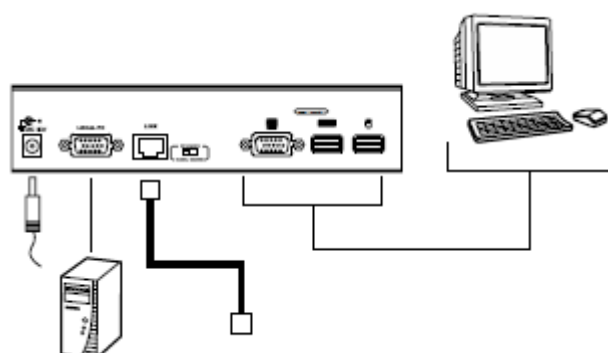
- ◆ CS-88A
- ◆ CS-9138

その他接続図

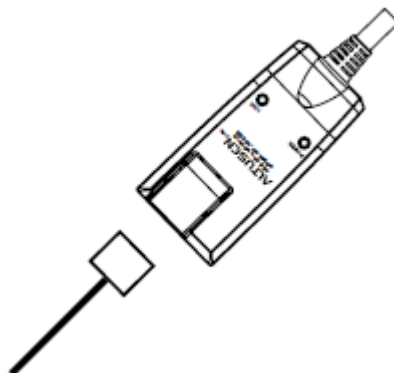
KA9222A PS/2 コンソールモジュール



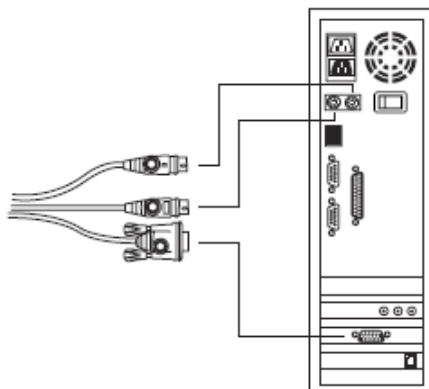
KA9272A USBコンソールモジュール



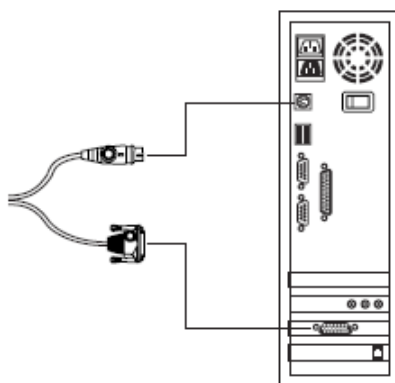
KM0216/KM0432 とコンピュータモジュールの接続方法



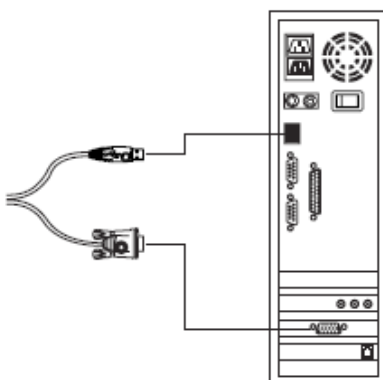
KA9120 PS/2 コンピュータモジュール



KA9130 旧Sun専用コンピュータモジュール

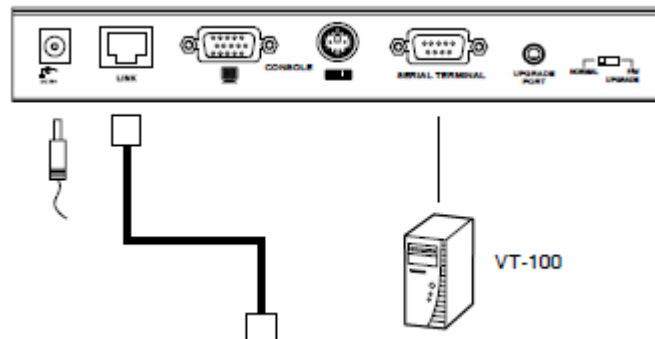


KA9131 Sun専用USBコンピュータモジュール

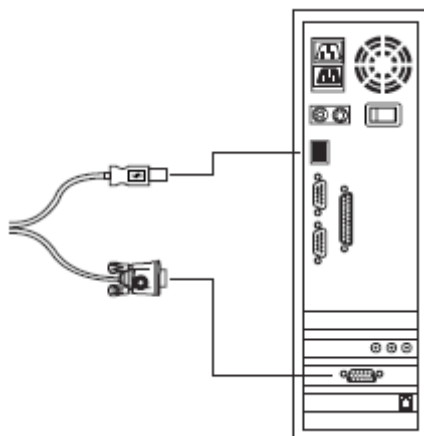


※KA9131 は 2008 年に販売終了し、KA9170 に機能統合されました。

KA9140 シリアル対応モジュール



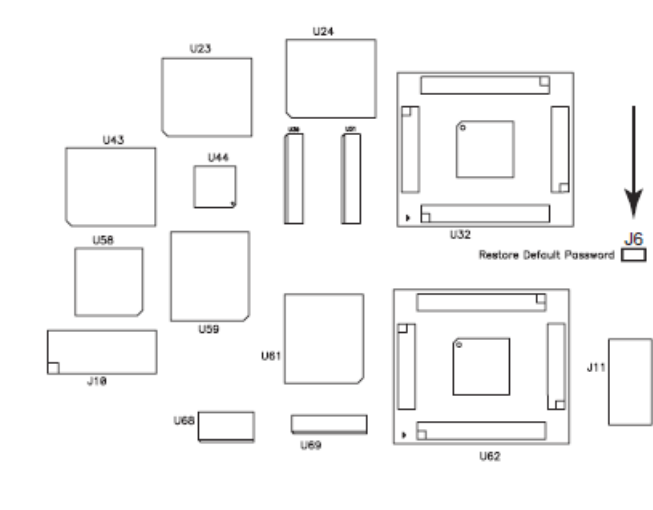
KA9170 USBコンピュータモジュール



ログイン情報のクリア

ユーザーネームやパスワードのデータが破損した、これらの情報を忘れてしまったなどの理由で、アドミニストレーターとしてログインできない場合、以下の手順でログイン情報をクリアすることができます。

1. KM0216/KM0432 の電源を切って、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
2. 製品のカバーを取り外してください。
3. ジャンパキャップを使って、メインボード上で J6 と書かれたジャンパをショートさせてください。



4. KM0216/KM0432 に電源を入れてください。電源を入れると以下のようなメッセージが画面に表示されます。

```
USERNAME AND PASSWORD INFORMATION HAS BEEN CLEARED.  
PLEASE POWER OFF THE SWITCH, REMOVE THE JUMPER, CLOSE  
THE CASE, THEN RESTART.
```

5. KM0216/KM0432 の電源をもう一度切ってください。
6. 手順 3 で使用したジャンパキャップをジャンパからはずしてください。
7. 製品のカバーを元に戻し、KM0216/KM0432 に電源を入れてください。
8. OSDのログイン情報は消去されました (p.44参照) ので、アドミニストレーターおよびユーザーのパスワードをリセットすることができます。

トラブルシューティング

問題	対処
<p>カスケード接続された KVM スイッチの特定のポートにはアクセス可能だが、その他のポートにアクセスすることができない。</p>	<p>カスケード接続されたKVMスイッチにおけるすべてのポートに対して、表示チャンネルは1つしかありません。カスケードされたKVMスイッチを使用していたオペレータがアクセスタイムアウト(p.55参照)になった場合、ポートは解放されますが、そのユーザーがログアウトタイムアウトになっていないとディスプレイチャンネルは解放されません。</p> <p>このような状況を避けるために、各ユーザーに対して適切なタイムアウト設定(p.53参照)を行ってください。</p>
<p>Sun キーボードをエミュレートすると、OK モード([Stop][A])を開始することができない。</p>	<p>OK モードを開始する場合は、以下の手順でキー操作を行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Ctrl]キーを一度押して離してください。 2. [T]キーを長押ししてください。 3. [A]キーを長押ししてください。 4. [T]キー、[A]キーから同時に指を離してください。
<p>ブロードキャストモードのコマンドを実行しても一部のコンピュータでそのコマンドが実行されない。</p>	<p>ブロードキャストモードでは、コンピュータが 1 台目の KM0216/KM0432 に接続されているか、デイジーチェーン接続された KVM スイッチに接続されているかを問わず、すべてのコンピュータに対してコマンドが送信されます(ブロードキャストモードでは、カスケード接続された KVM スイッチに接続されているコンピュータにはコマンドが送信されません)。</p> <p>また、このモードで実行したコマンドが、一部の OS では認識されないコマンドであるという可能性もありますので、コマンドの内容をご確認ください。</p>

Sunシステムに関するトラブル

問題	解決方法
D-sub15ピンのコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。 (例:Sun Blade 1000 Server)	ディスプレイの解像度は 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。 テキストモードで、 1. OK モードを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow で、 1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> 2. ログアウトします。 3. もう一度ログインします。
13W3のコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。(例:Sun Ultra Server)*	ディスプレイの解像度は 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。 テキストモードで、 1. OK モードを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow で、 1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>ffbconfig -res 1024x768x60</pre> 2. ログアウトします。 3. もう一度ログインします。

* Sun VGA カードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。上記の手順で対応しても解決しない場合は Sun VGA カードのマニュアルを一度ご覧ください。